

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q1	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(環境と民俗)		
編集担当教員	増田 研		
授業担当教員名(科目責任者)	増田 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	増田 研		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	ken-m@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境440（文教キャンパス）		
担当教員TEL	2734		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	この講義では日本における人々の生活環境が自然とのあいだに切り結んできた関係を、生活空間の構造という観点から考える。		
授業方法（学習指導法）	講義およびワークショップ（ただし受講人数による）からなる。		
授業到達目標	自然環境と、それに対する文化的反応としての民俗的想像力を、講義で学習した概念によって説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	民俗とはなにか。	
	2	近代的／前近代的空間想像力	
	3	焼畑農業と雑穀栽培(1)	
	4	焼畑農業と雑穀栽培(2)	
	5	コメ栽培文化	
	6	漁撈文化	
	7	職能者集団(1)	
	8	職能者集団(2)	
	9	死の風景	
	10	霊を飛ばし、神を迎える(1)	
	11	霊を飛ばし、神を迎える(2)	
	12	長崎と周辺地域の精神世界と空間配置(1)	
	13	長崎と周辺地域の精神世界と空間配置(2)	

	14	長崎と周辺地域の精神世界と空間配置(3)
	15	まとめ
	16	試験
キーワード	環境、民俗、生業、神霊、儀礼、空間	
教科書・教材・参考書	指定しない。	
成績評価の方法・基準等	レスポンスペーパーなどの平常点（45％）、試験（55％）	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q2	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(英語で学ぶオランダと西欧の文化)		
編集担当教員	山下 龍		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 龍		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 龍		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	経済学部・教育学部・水産学部・薬学部		
担当教員Eメールアドレス	noboruy@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	言語教育研究センター		
担当教員TEL	095-819-2080		
担当教員オフィスアワー	講義の前後		
授業のねらい	日本とオランダとの交流が江戸初期から始まり、その交流が現在まで400年以上続いています。この講義ではオランダの文化と歴史を中心に、西欧の歴史的・文化的発展、または、長崎と深い関わりのある日蘭交流について、基本的な知識の習得と文化理解を目的とします。現在の国際社会において公用語である英語で講義を提供します。		
授業方法（学習指導法）	講義形式 この講義の為に作成した資料や視聴覚教材(Powerpoint)を利用して、世界史が得意ではない学生にも、より分かりやすく、オランダと西欧の文化と歴史を紹介します。		
授業到達目標	英語でオランダと西欧の歴史と文化、または、日蘭交流についての基本的な知識を習得します。		
	ローマ時代から現在までの歴史の出来事を説明しながら、オランダと西欧の発展を理解させます。オランダを知ることで、西欧の文化の発展も理解することができます。		
	回	内容	
	1	ローマ帝国時代 西欧でのキリスト教の布教	
	2	カール大帝とカロリング（フランケン）帝国 十字軍 オランダ語文学の誕生	
	3	ホーランド州の発展 中世末期の危機 北ヨーロッパのハンザ貿易	
	4	スペインとポルトガル、大航海時代 エラスムスとルネサンス カール5世と神聖ローマ帝国	

授業内容	5	マルティン・ルターとプロテスタントの宗教革命 オラニエ公ウィレム1世とオランダの独立	
	6	ネーデルランデン7州連邦共和国 15・16世紀の美術	
	7	オランダ東インド会社の創立 日蘭交流、平戸・出島	
	8	オランダの黄金時代 17世紀の美術	
	9	奴隷制 啓蒙思想時代とフランス革命 ナポレオン時代	
	10	オランダ王国 ベルギーの独立	
	11	産業革命 年少労働 女性権利 印象派とフィンセント・ファン・ゴッホ	
	12	第一次世界大戦 1930年代の世界恐慌 De Stijlの美術	
	13	第二次世界大戦 冷戦時代 20世紀のオランダ	
	14	現在のオランダ 宗教と伝統・祭り・自転車の王国・など	
	15	現在のオランダ 教育とスポーツ・政治・食べ物とお菓子・など 講義の総括	
	16	定期試験	
	キーワード	英語・歴史・国際理解・比較文化・日蘭交流・蘭学・文化	
	教科書・教材・参考書	教材・プリント教材 毎回配布します	
	成績評価の方法・基準等	成績評価は、定期試験50%、出席・授業態度40%、英語でのレポート（発表）10%	
	受講要件（履修条件）	全回出席が原則	
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考（URL）			
備考（準備学習等）			



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q3	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(日本語と表現)		
編集担当教員	鈴木 慶子		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 慶子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 慶子, 大森 アユミ		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	keiko-s@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部514研究室		
担当教員TEL	095-819-2302		
担当教員オフィスアワー	火VI		
授業のねらい	日本語表現の特徴を多角的に吟味し、言語力を深める。		
授業方法（学習指導法）	問題に基づいたグループ学習とその結果の発表 → 質疑応答 → 学習報告書の提出		
授業到達目標	1) 自分自身の、言語によるコミュニケーション力の程度を客観的に認識することができる。(①⑫) 2) 固有の状況に対して、それぞれの立場の意図を析出することができる。(⑬) 3) 固有の状況に対して、意思疎通のための言語表現を想起することができる。(⑤) 4) 日常生活における言語によるコミュニケーションが果たす役割に関して理解し、吟味したコミュニケーションを行使できる。(③⑤⑫⑬)		
	回	内容	
	1	受講基礎調査 グループ編成	
	2	受講基礎調査をふまえて コミュニケーション力の自己診断	
	3	ケーススタディ1-1 「別れの言葉」(レトリックを学ぶ) モデルケースを解読する	
	4	ケーススタディ1-2 「別れの言葉」(レトリックを学ぶ) グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)	

授業内容	5	復習
	6	ケーススタディ2-1 「交渉の言葉」(待遇表現を学ぶ)
		モデルケースを解説する
	7	ケーススタディ2-2 「交渉の言葉」(待遇表現を学ぶ)
		グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	8	復習
	9	ケーススタディ3-1 「言葉の差別」(性差)
		モデルケースを解説する
	10	ケーススタディ3-2 「言葉の差別」(地域差)
		グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	11	復習
	12	ケーススタディ4-1 「親切の言葉」(相手にあわせて)
		モデルケースを解説する
	13	ケーススタディ4-2 「親切の言葉」(相手にあわせて)
		グループ発表 → 質疑応答 → 学習報告書(完成させて、次回提出)
	14	復習
15	言語によるコミュニケーションの再定義	
16	試験	
キーワード	日常生活、文字言語、音声言語	
教科書・教材・参考書	『ケータイを持ったサル』 正高信男著 中公新書 『ウェブ人間退化論』 正高信男著 PHP研究所 『コミュニケーション力』 斉藤孝著 岩波新書 『コミュニケーション力を引き出す』 平田オリザ著 PHP新書	
成績評価の方法・基準等	3回の欠席で失格。12回以上出席の場合に、下記で評価する。60点以上で合格とする。 プレゼンテーション、質疑応答 [10%] 個人レポート [20%] グループレポート(学習報告書) [40%] 試験 [30%]	
受講要件(履修条件)	個人で行うこととグループで行うことの両方ができること。	
本科目の位置づけ	全学モジュール科目「コミュニケーション実践学」の選択科目(モジュールII)である。	
学習・教育目標	コミュニケーション領域の知識と技能を活用できる。	
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q4	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(核兵器廃絶と教育)		
編集担当教員	全 炳徳		
授業担当教員名(科目責任者)	全 炳徳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	全 炳徳		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	bdjun@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部本館、309号室		
担当教員TEL	095-819-2324		
担当教員オフィスアワー	月10:30-14:20		
授業のねらい	核兵器廃絶に向けての取り組みや歴史的な背景等について、次世代の人たちにどう伝えるべきであるかについて考察する。特に、初等・中等教育における核兵器および被ばく体験等の戦争被害の扱われ方の実際とその問題点、あるべき姿について「平和教育の観点」から考える。		
授業方法（学習指導法）	広島、長崎、沖縄についての平和教育関連の専門家による地域的特性を講義。更には、これらについての言論・報道の専門家の講義。これを受けて、受講生たち自らが作成した平和教育教材を実践する場を提供する。		
授業到達目標	平和教育の題材として広島、長崎、沖縄を取り上げ、それぞれの専門家から地域的な特性について学ぶ。学んだものを自分たちのものとして作り上げるためにディスカッションを経て、平和教育教材を作成する。作成した教材は学校現場で実践を持って平和教育を体験する。		
授業内容	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、講義）：桐谷、全	
	3	核兵器廃絶と教育（広島・長崎の視点から、討論会）：桐谷、全	
	4	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、講義）：山口、全	
	5	核兵器廃絶と教育（沖縄の視点から、討論会）：山口、全	
	6	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、講義）：高瀬、全	
	7	核兵器廃絶と教育（言論・報道関係者の視点から、討論会）：高瀬、全	
	8	核兵器廃絶と教育（グループスタディ）：全	
	9	核兵器廃絶と教育（グループスタディ）：全	
10	核兵器廃絶と教育（教材開発と発表：広島・長崎編）：全		

	11	核兵器廃絶と教育（教材開発と発表：沖縄編）：全
	12	核兵器廃絶と教育（教材開発と発表：言論・報道編）：全
	13	核兵器廃絶と教育（平和教育実践1、長崎市内小中学校）：全
	14	核兵器廃絶と教育（平和教育実践2、長崎市内小中学校）：全
	15	核兵器廃絶と教育（平和教育実践3、長崎市内小中学校）：全
	16	最終レポート提出
キーワード	核兵器廃絶、平和教育	
教科書・教材・参考書	講義時に提示	
成績評価の方法・基準等	<p>本講義は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回レポートの評価点 2. 平和教育教材開発と発表の内容評価点 3. 平和教育実践授業の評価点 4. 最終レポートの評価点 <p>を合計して評価する。</p>	
受講要件（履修条件）	平和教育の興味・関心のある学生 初等・中等教育に関心のある学生	
本科目の位置づけ	基本的に、核兵器廃絶と教育をテーマとして、広島、長崎、沖縄を取り上げ専門的に学び、自分たちはもちろん、次世代の子どもたちにはどう伝えていくかを考える。	
学習・教育目標	学生たちは平和教育を考える上で、広島、長崎、沖縄の現実及び、言論・報道機関の視点からの自己点検を行う。更に、学校現場で、子どもたちに伝えたいテーマや教材になりうるネタを探し、実際に、学校での授業実践を行うことを目標とする。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q5	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(多文化理解とことば)		
編集担当教員	橋本 健夫		
授業担当教員名(科目責任者)	橋本 健夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋本 健夫, 楊 暁安, 劉 卿美, ベー シュウキー		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養C棟]C-16		
対象学生（クラス等）	医学部・歯学部・工学部・環境科学部		
担当教員Eメールアドレス	hasimoto@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部（335号室）		
担当教員TEL	095-819-2338(携帯：090-2587-5670)		
担当教員オフィスアワー	毎日のお昼の時間（12：00～12：50）（予約して来室のこと）		
授業のねらい	国際社会で活躍する人にとって多文化理解能力は必須である。本授業においては、中国・韓国・マレーシアの文化を取り上げ、その特徴を理解するとともに、相互理解を深める方法について考える。		
授業方法（学習指導法）	受講生一人一人が、中国・韓国・マレーシアを身近なものとして感じることができるよう、予め各国を調べ、疑問点を抽出する。それらを各国出身の教員が取り上げ答えるとともに、各国の文化を紹介し、理解を深める工夫を行って授業を進める。		
授業到達目標	他国の文化の特徴を理解するとともに、共生のための相互理解のあり方を考える力を身につける。		
授業内容	回	内容	
	1	本授業がどのように展開されるかについてのオリエンテーション（全教員参加）	
	2	「私とマレーシア」（マレーシアについて調べたことをもとに各班で知りたいことをまとめる）（担当：橋本教員）	
	3	マレーシアの文化（担当：ベー教員）	
	4	マレーシアの教育（担当：ベー教員）	
	5	マレーシアとの相互理解（各班からの意見をもとに理解を深める）（担当：ベー教員）	
	6	「私と中国」（中国について調べたことをもとに各班での疑問点をまとめる）（担当：橋本教員）	
	7	中国の諧音語と中国文化（担当：楊教員）	
	8	中国の語順と中国文化（担当：楊教員）	
	9	中国との相互理解（各班からの意見をもとに理解を深める）（担当：楊教員）	
		「私と韓国」（韓国について調べたことをもとに各班での疑問点をまとめる）（担当：	

	10	橋本教員)
	11	韓国の文化とことば① (担当：劉教員)
	12	韓国の文化とことば② (担当：劉教員)
	13	韓国の文化とことば③ (担当：劉教員)
	14	韓国との相互理解 (各班からの意見をもとに理解を深める) (担当：劉教員)
	15	マレーシア, 中国, 韓国のどれか一つを取り上げ, 相互理解の方策を語る。
	16	
キーワード	多文化理解, 相互理解	
教科書・教材・参考書	各国の様子を知らせるDVDや映画	
成績評価の方法・基準等	課題 (40点) + 授業参加 (30点) + プレゼンテーション (30点)	
受講要件 (履修条件)		
本科目の位置づけ	モジュール「ことばと文化」の中で各文化を理解するためのことばの重要性を知る。	
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q7	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(日本の思想文化)		
編集担当教員	佐久間 正		
授業担当教員名(科目責任者)	佐久間 正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	佐久間 正		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	sakuma@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境科学部4階407研究室		
担当教員TEL	095-819-2731		
担当教員オフィスアワー	授業終了後30分		
授業のねらい	日本の歴史に対する理解を踏まえ、日本の思想の内容と特徴について基本的知識を有するとともに、それらについて簡単な説明ができる。多文化社会における思想と文化のあり方について適切に理解できる。		
授業方法（学習指導法）	教科書は用いず、配布する授業内容のレジュメ資料に基づいて授業を進め、適宜討論の時間を設ける。また受講生は授業内容及び指定された文献を読み、意見を述べる事が義務づけられる。		
授業到達目標	日本の歴史に関する理解を踏まえ、日本の思想の内容と特徴について基本的な知識を有し簡単な説明ができる。多文化社会における思想と文化の基本的あり方について理解している。		
授業内容	回	内容	
	1	はじめに 言語、思想、文化	
	2	列島の自然と文化、中華帝国とその周縁	
	3	土着、外来、日本化	
	4	仏教（1） 伝来、古代仏教	
	5	仏教（2） 鎌倉仏教	
	6	仏教（3） 室町～徳川期	
	7	儒教（1） 伝来、古代～戦国期	
	8	儒教（2） 徳川儒教	
	9	儒教（3） 徳川儒教（続き）	

	10	神道 (1) 神道の形成
	11	神道 (2) 徳川期、国学
	12	キリスト教 伝来と禁教、南蛮学、蘭学、洋学
	13	近代日本の思想文化(1)
	14	近代日本の思想文化(2)
	15	おわりに 多文化社会の思想文化
	16	定期試験
キーワード	土着、外来、日本化、神道、儒教、仏教	
教科書・教材・参考書	教科書は特に用いず、授業内容のレジユメ資料を配付する。参考文献は適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	期末試験 (70%)、授業への参加 (30%)	
受講要件 (履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)	高校の日本史及び倫理の教養・知識は身につけていることを前提とする。それらを受講しなかった者は少なくともそれらの教科書を読んでおくこと。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q8	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(共生のグローバル人類学)		
編集担当教員	増田 研		
授業担当教員名(科目責任者)	増田 研		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	増田 研		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-23		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	ken-m@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環境401（増田研究室）		
担当教員TEL	095-819-2734		
担当教員オフィスアワー	随時（事前連絡が必要）		
授業のねらい	<p>グローバル化された世界における共生のあり方を、文化人類学という武器を使って探る。これがこの「共生のグローバル人類学」という講義の目的である。文化人類学は異文化ひいては文化的他者を理解する学問であり、なおかつ、人類文化の普遍性を明らかにする学問である。他方、私たちが生きる世界においては、共生の重要性を誰もが認めつつも、それと真っ向から対立する出来事が充ち満ちている。必要なことは「過去に学び、現在を理解し、未来を構想する」、そのための身のこなしを習得することであり、そのこと自体の重要性を理解することであろう。またグローバル化された世界を構想する力を養うことは、自らのポジションを見定めることでもある。</p>		
授業方法（学習指導法）	原則として講義科目であるが、場合によってワークショップ形式を取り入れることもある。（実際の授業運営は受講人数によって調整される。）		
授業到達目標	<p>(1)現代世界が抱える問題について、歴史的背景を把握しながら理解し、説明できる。 (2)社会的事象に対する文化人類学アプローチの特色を理解し、説明できる。 (3)現在進行している「共生」への模索と、その解決の道筋を構想し、主張することが出来る。</p>		
	回	内容	
	1	現代社会の多様な問題と「共生」（増田） ★現代社会の問題を意識し、「共生」へと関心を開くこと	
	2	世界はボーダーレスの球面である（増田） ★世界の「つながり」を認識し、自らが生きる「狭い世界」の脈絡とつなげる。	
	3	帝国主義と植民地、世界システム（増田） ★異文化交流の問題を、世界史的視野において理解する。	
	4	文化人類学のアプローチ（増田） ★文化人類学の出現から現在までのアプローチの変遷を理解する。	

授業内容	5	エスノグラフィーを書く：紛争と健康と教育（増田） ★増田によるエチオピアでのフィールドワーク実践例を通して、現代的課題に対する取り組みの事例を知る。	
	6	アフリカにおける紛争の研究：導入（波佐間・増田） ★アフリカにおける紛争の概要と、その理解のパラダイムを知る。	
	7	敵対と友好を揺れ動く民族間関係（波佐間・増田） ★北東ウガンダの牧畜民社会の紛争の事例から民族間関係の動態を理解する。	
	8	マスメディアがむける東アフリカの民族紛争へのまなざし（波佐間・増田） ★マスメディアが広めるアフリカへのステレオタイプを批判する。	
	9	東アフリカ牧畜社会での平和構築と外部介入（波佐間・増田） ★ケニア・カクマ難民キャンプの事例をもとに、平和構築のあり方を理解する。	
	10	社会開発（Development）とは何か？（増田） ★共生的関与のあり方のひとつである「社会開発」の概要と、その歴史的経緯を理解する。	
	11	第二次世界大戦中、戦後の人類学の歴史的背景（佐藤・増田） ★人類学の発展の背景の具体例および、戦中の人類学の目的と戦後のそれに対する批判を理解する。	
	12	世界銀行の中での人類学、人類学者（佐藤・増田） ★世界銀行の開発政策の変遷と中での人類学者の役割を理解し、世界銀行の人類学者らが提唱する国際開発のキーワードとその概念を説明できるようにする。	
	13	開発と人類学：事例紹介(1)（佐藤・増田） ★人類学的アプローチを開発プロジェクトに応用した事例を通して、その特長、特色を理解する。	
	14	開発と人類学：事例紹介(2)およびまとめ（佐藤・増田） ★人類学的アプローチを保健プロジェクトに応用した事例を通して、その特長、特色を理解する。	
	15	全体の総括（増田） ★講義全体の総括を行う。	
	16		
	キーワード	文化人類学、多文化共生、紛争、開発、異文化理解	
	教科書・教材・参考書	教科書はとくに指定しないが、以下のものを参考書として挙げておく。（その他の推薦資料については講義中に適宜紹介する。） 奥野克巳・花淵馨也（編）『文化人類学のレッスン』（学陽書房）、2005年 佐藤 寛、藤掛 洋子編著『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ—』明石書店 2011年	
	成績評価の方法・基準等	毎回のレスポンスペーパー（40%）および試験（60%）によって評価する。	
	受講要件（履修条件）	受講生は以下の点を努力して欲しい。 (1)可能な限り全ての回に出席すること（すべての講義が一続きになるようにシラバスを設計しており、欠席すると理解が追いつかないかもしれない。） (2)社会情勢とりわけ世界の出来事をよく知っていることが望ましい。日常生活において新聞を読むことを習慣とすること（インターネット上の「ネット記事」ではダメである。）	
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考（URL）			
備考（準備学習等）			



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660010Q9	科目番号	05660010
授業科目名	●人間と文化(疑似科学とのつき合い方)		
編集担当教員	武藤 浩二		
授業担当教員名(科目責任者)	武藤 浩二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	武藤 浩二		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養G棟]G-38		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	cosy @nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 美術・技術棟108号室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	現代社会に蔓延する各種の疑似科学について学び、それらがなぜ疑似科学と呼ばれるのかを理解することによって、科学的なものの見方を獲得する。 さらに科学の「限界」を把握し、科学と価値の関係の理解を通じて、自律的に生きるための基礎力を養う。		
授業方法（学習指導法）	黑板への番書やスライド、ビデオを用いた講義と、担当教員と受講生による討論を行う。 講義資料や課題用紙はWebClassや教員のWEBページを通じて配布する。		
授業到達目標	科学的なものの見方を獲得する。疑似科学かどうかを判断するための方策を考えることができるようになる。科学と価値の関係について考察できるようになる。		
授業内容	講義内容は多岐にわたるので、以下のように各教員がテーマに基づいて講義を行う。 なお、教員の出張等の都合で実施回を変更する場合がある。		
	回	内容	
	1	全教員「開講のあいさつ：現代教育に欠けたもの」	
	2	長島雅裕「血液型と性格」	
	3	武藤浩二「マイナスイオンと健康」	
	4	長島雅裕「超能力・UFOと陰謀論」	
	5	武藤浩二「水からの伝言と学校教育」	
	6	武藤浩二「微生物と放射線の疑似科学」	
	7	長島雅裕「代替医療」	
	8	全体討論会第1部：第1～7回の講義について全教員・学生で討論する	
	9	小西祐馬「社会調査のリテラシー：統計データとの正しい接し方」	
10	小西祐馬「乳幼児の教育について：早期教育の問題点」		

	11 安部俊二「蔓延する学位商法（ディプロマ・ミル）」
	12 安部俊二「裁判と〈科学〉：血液型とDNA鑑定」
	13 上菌恒太郎「〈科学的思考〉とはなにか」
	14 上菌恒太郎「〈自立〉し、〈考える〉人間になるために」
	15 全体討論会第2部：第9～14回の講義について全教員・学生で討論する。
	16
キーワード	科学, 疑似科学, 前科学, 宗教の歴史, 認識論, 感性, 法医学, 大学偽装
教科書・教材・参考書	資料：長崎大学教育学部「疑似科学とのつきあいかた」研究会編『疑似科学とのつきあいかた：教師を目指す皆さんへ』 参考書：大村政男『新訂 血液型と性格』（福村出版），左巻健男『水は何にも知らないよ』（ディスカバートゥエンティワン），安斉育郎『科学と非科学との間』（かもがわ出版），伊勢田哲治『疑似科学と科学の哲学』（名古屋大学出版会），池内了『疑似科学入門』（岩波新書），菊池誠・松永和紀・伊勢田哲治・平川秀幸『もうだまされないための「科学」講義』（光文社新書），木原善彦『UFOとポストモダン』（平凡社新書），菊池聡・谷口高士・宮元博章編『不思議現象 なぜ信じるのか』（北大路書房），庄司和晃『科学的思考とは何か』『科学ばかり主義の克服：未来の教育学のための人間研究』『人はなぜオカルトに魅かれるのか』（明治図書），南郷継正『弁証法・認識論への道』（三一書房），等
成績評価の方法・基準等	講義テーマへの積極的な取り組みを重視する立場から，最終課題レポート（5割），討論を含む講義への貢献度および各教員が課す「小レポート」の成績（5割）で総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	http://tech.edu.nagasaki-u.ac.jp/muto/
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660030Q1	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(芸術)		
編集担当教員	織田 芳人		
授業担当教員名(科目責任者)	織田 芳人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	織田 芳人		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	m-oda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部美術技術棟2階207番研究室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	m-oda@nagasaki-u.ac.jp（要予約：水曜日9:20～10:20）		
授業のねらい	色に関する基礎知識を習得し、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえて、紙という素材を利用した基礎的な造形表現の方法を習得することをねらいとする。		
授業方法（学習指導法）	資料提示によって学習すべき知識や造形作品の制作方法を理解した上で、実際の素材（トーンカラーや方眼カラードフォルムなど）を使用して、知識の確認および制作を行う。		
授業到達目標	色に関する基礎的な説明ができ、構成・デザインにおける美しさ・楽しさという観点を踏まえた基礎的な造形表現ができる。		
授業内容	構成は、美術・デザインに共通する色や形の造形要素を掘り下げることによって、造形の原理を追求する分野である。デザインは、ものの使いやすさ、美しさ、楽しさを考えて生活に役立つ造形品をつくり出していく活動である。本授業では、色、平面構成、立体構成・デザインに関する知識と、それらを活かした基礎的な造形表現を学ぶ。		
	回	内容	
	1	デザインの話、授業の概略および必要な道具類の説明	
	2	色・補色残像の話、色相環の制作と提出	
	3	色の対比の話、トーンカラーのトーン別分類	
	4	対比例の制作と提出	
	5	色の調和・配色の話、配色例の制作と提出	
	6	平面構成の話、「並べる」操作による平面構成の制作と提出	
	7	発想練習の話、「直線で切って滑らせる」操作による平面構成の制作と提出	
	8	「直線と円弧で切って滑らせる」操作による平面構成の制作と提出	
	9	立方体の展開図の話、立方体の変った展開図の制作（1/2）	
10	立方体の変った展開図の制作（2/2）と提出		

	11	飛び出すカードの話、飛び出すカードの制作 (1/2)
	12	飛び出すカードの制作 (2/2) と提出
	13	書体の話、アルファベットの制作と提出
	14	和文書体の制作と提出
	15	筆記小試験、デザイン史の話、レポートの提出
	16	
キーワード		
教科書・教材・参考書	トータルカラー（配色体系に基づく色紙） 方眼カラードフォルム（片面方眼付の色工作紙）	
成績評価の方法・基準等	<p>(1) 全課題（造形作品等）提出40点 課題条件を満たしているか、制作作業がていねいか等を評価します。</p> <p>(2) 全課題についてのレポート提出30点 各課題に関するコメントを記したもの。</p> <p>(3) 筆記小試験20点</p> <p>(4) 授業への参加態度10点 授業へ積極的に参加したかを評価します。 以上の総合点60点以上を合格とします。</p>	
受講要件（履修条件）	実技を伴うので、第1回に、必要な道具類を説明します。第2回から、必要な道具類を各自用意して受講してください。	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660030Q2	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(文学・芸術と核兵器)		
編集担当教員	広瀬 訓		
授業担当教員名(科目責任者)	広瀬 訓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	広瀬 訓		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	shirose@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター2階		
担当教員TEL	095-819-2204		
担当教員オフィスアワー	水曜日3・4限およびアポイントメントによる		
授業のねらい	文学、絵画、映画、コミック、音楽等に核兵器の存在および使用が与えた影響を探り、核兵器が様々な芸術の中でどのように描写されてきたかを考察することで、核兵器が人々の間でどのように認識、位置づけされてきたかを検討すると同時に、芸術が核兵器の存在に与える影響についても考える。		
授業方法（学習指導法）	平和、紛争、核兵器を取り扱う各種メディアに関し、基礎的な知識を学んだ後、グループディスカッション、グループワーク、リアクションペーパー、プレゼンテーション等、多様な方法により、学生の意見を共有する形式で授業を進めたいと思います。また、講師として、現役のプロデューサー、作家、評論家等を迎えますので、多彩な授業内容になるかと思えます。		
授業到達目標	様々な文学・芸術と核兵器の存在との間の関係について、①現状を理解し、②その背景にある核兵器の存在に対する認識・見解を検討し、③それに対する自分の意見を、論理的に構築し、表現することを目的とする。		
	様々なメディアに表現されている核兵器の存在をそれぞれの分野の専門家による講義を通して検討してゆく。非常勤講師の都合により、講義の順序が入れ替わる場合がある。		
	回	内容	
	1	はじめに：授業の進め方（広瀬 訓） ①文学・芸術と核兵器 ・理論によるアプローチと感生によるアプローチ ・核兵器の何を描写するのか「ひろしまのピカ」、「超兵器R1号」	
	2	②芸術の持つ力（広瀬 訓） ・「風が吹くとき」の訴えるもの	
	3	③反戦という考え方（赤木かんこ） ・文学と絵本が描く戦争と平和	
	4	④原爆と映画：その1（山上徹二郎）	

授業内容	5	⑤ゲームと戦争・平和（ヒコ田中）	
	6	⑥コミックに描かれた戦争と平和（広瀬 訓） ・何を伝えたかったのか ・メッセージとテクニック	
	7	⑦核をテーマとした児童文学（赤木かんこ） ・外国作品 ・日本の作品	
	8	⑧原爆と映画：その2（山上徹二郎）	
	9	⑨コミックに描かれた核兵器（広瀬 訓） ・感情的表現と理論的表現 ・テーマの設定（「はだしのゲン」、「沈黙の艦隊」） ・核兵器の理解（「龍」、「エリア88」）	
	10	⑩原爆と映画：その3（山上徹二郎）	
	11	⑪核をテーマとした児童文学（赤木かんこ） ・長崎を舞台とした作品	
	12	⑫経験と創作（広瀬 訓） ・「13デイズ」と「未知への飛行」	
	13	⑬メディアの功罪（広瀬 訓） ・軍歌と反戦歌 ・「戦意高揚」という芸術 ・「わかりやすさ」と「感情に訴える」方法	
	14	⑭原子力発電と児童文学（赤木かんこ） ・現在の問題にどう向き合うか	
	15	⑮まとめ（広瀬 訓）	
	16		
	キーワード	核兵器、芸術、認識、メディア、報道倫理	
	教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しません。参考書は下記ですが、授業の際に取り上げる、あるいは推薦する図書、絵本、映画、コミック等のリストを随時配布する予定ですので、できるだけ自分で読んでください。 長谷川 潮 『戦争児童文学は真実を伝えてきたか』 梨の木舎 鳥越 信・長谷川 潮 『はじめて学ぶ日本の戦争児童文学史』 ミネルヴァ書房 長谷川 潮 『世界の子どもの本から「核と戦争」が見える』 梨の木舎 石子 順 『漫画に見る戦争と平和90年』 ほるぷ出版	
	成績評価の方法・基準等	出席点を含め、レポート、リアクションペーパーの提出、ディスカッション、グループワークへの積極的な参加、意見の発表等、平常点が50%、期末の成果物（通常のレポート以外に、絵本、紙芝居、小説、詩歌、シナリオ、短編フィルム等、多様な形式での提出を認めようと考えています）が50%です。	
	受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	「核兵器のない世界」を実現するための方法の一環としての人文・芸術面からのアプローチを取り上げる科目であり、核兵器廃絶を推進してゆくうえで、理性だけでなく、感性に働きかける方法を考える分野です。		
学習・教育目標	自分の伝えるべきメッセージを論理的に構築するだけでなく、どのようにそれを効果的な方法で表現するかを学ぶことを通し、現実的な問題に対し、自主的、積極的に働きかけようとする姿勢を養うことを目標とする。		
備考（URL）			
備考（準備学習等）			



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660030Q3	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(芸術)		
編集担当教員	福井 昭史		
授業担当教員名(科目責任者)	福井 昭史		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福井 昭史		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	a-fukui@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟3階		
担当教員TEL	095-819-2342		
担当教員オフィスアワー	授業等で不在が多く時間の指定ができないので、在室時ならいつでも		
授業のねらい	音楽を取り上げ、教育における芸術の役割について理解することを目標とする。音楽が教育においてどのような役割を果たしているのか、人間と音楽との関わりなどについて考察することを通して理解を深める。また、学校教育における音楽教育や音楽活動の意味を考察する。		
授業方法（学習指導法）	講義によって獲得した知識などをもとに、与えられた課題を考察する。		
授業到達目標	文化としての音楽、音楽と人間の関係、音楽教育について理解する。		
授業内容	回	内容	
	1	"音楽の感受と鑑賞（1）曲想の感受" 音楽の表す情景を想像する活動	
	2	"音楽の感受と鑑賞（2）要素の感受" トルコ行進曲のリズムとウィーン古典派の音楽	
	3	"音楽の感受と鑑賞（3）様式の感受・時代的特徴" バロック、古典派、ロマン派の協奏曲の形式	
	4	"音楽の感受と鑑賞（4）様式の感受・地域的特徴" "リズムの特徴、スペイン・ヘミオラのリズム"	
	5	〔課題に対する討論〕人は音楽をどのように感じ取り理解するのか。音楽教育は何をするべきなのか。	
	6	"人間と音楽（1）生活と音楽" 音楽の起源に関する学説を裏付ける民俗音楽	
	7	"人間と音楽（2）音楽の変化・発展" 生活の変化と芸能の衰退・発展	
	8	"人間と音楽（3）心と音楽" 音楽療法と療法的音楽教育	

	9	〔課題に対する討論〕人間にとって音楽とは何か
	10	"文化の理解（１）民謡の伝播" 海上交通と歌の伝播
	11	"文化の理解（２）音楽の拡散・伝播" 大陸伝来の楽器と音楽
	12	"文化の理解（３）琵琶の歴史と様式の変化" 琵琶の歴史と各々の表現
	13	"文化の理解（４）三味線の伝来" 三味線の伝来と本土での改良、諸流派の出現
	14	"文化の理解（５）箏の歴史と音楽の近代化" 箏の歴史と西洋音楽の影響
	15	〔課題に対する討論〕音楽からどのような文化の在り方が理解できるか。
	16	学習のまとめ
キーワード	人間と芸術（音楽）、音楽教育	
教科書・教材・参考書	参考書：「よくわかる日本音楽基礎講座」音楽之友社	
成績評価の方法・基準等	課題に対する討論とその資料（30%）、日常の活動状況（30%）筆記試験（40%）	
受講要件（履修条件）	芸術や文化、教育に対する関心があること	
本科目の位置づけ	教育における芸術の意味の理解	
学習・教育目標	文化としての音楽、音楽と人間との関わり、音楽による教育についての理解を深める。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	人間にとって芸術・音楽とは何なのかという問題意識を持ち、関連する資料を調査しておくこと	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660030Q4	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(日本の言語と文化)		
編集担当教員	池田 幸恵		
授業担当教員名(科目責任者)	池田 幸恵		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	池田 幸恵		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-22		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yu-ikeda@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	環405		
担当教員TEL	819-2738		
担当教員オフィスアワー	火曜日14:30-16:00		
授業のねらい	現代日本語に興味を持ち、日本語に関する理解を深める。		
授業方法（学習指導法）	毎回、講義終了後に確認テストを行う。		
授業到達目標	敬語が正しく使える。敬語の誤用を訂正できる。正しい日本語表記ができる。		
授業内容	現代日本語に関する諸問題について、敬語・方言・表記などのテーマごとに講義する。 第16回 定期試験		
	回	内容	
	1	オリエンテーション	
	2	敬語に関する世論調査（1）	
	3	敬語に関する世論調査（2）	
	4	敬語の正用・誤用	
	5	手紙を書く	
	6	方言（1）方言の歴史	
	7	方言（2）方言と共通語	
	8	方言（3）方言の研究	
	9	方言（4）長崎県の方言	
	10	方言（5）方言地図をよむ	
	11	日本語表記の諸問題（1）現代仮名遣	
	12	日本語表記の諸問題（2）漢字政策	
13	現代語の諸問題（1）若者言葉		

	14	現代語の諸問題 (2) 外来語
	15	現代語の諸問題 (3) 日本人の名前
	16	テスト
キーワード	日本語 方言 敬語 表記	
教科書・教材・参考書	プリントを配布する。	
成績評価の方法・基準等	確認テスト50%、定期試験50%	
受講要件 (履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考 (URL)		
備考 (準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660030Q5	科目番号	05660030
授業科目名	●言語と芸術(芸術と文化)		
編集担当教員	堀内 伊吹		
授業担当教員名(科目責任者)	堀内 伊吹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀内 伊吹		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-32		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	horiuchi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部音楽棟2階206（改修工事の場合は変更します）		
担当教員TEL	095\819-2343		
担当教員オフィスアワー	水曜日 5時間目		
授業のねらい	長崎の芸術文化活動の実態を概観し、実際に文化施設に出かけ、芸術鑑賞を行う。		
授業方法（学習指導法）	視聴覚機器を活用して、またその分野のゲストをお迎えしての講義と文化施設に出かけての演習。		
授業到達目標	音楽文化を取り巻く状況が理解でき、実際の演奏会を鑑賞し、生の演奏に触れる喜びを感じ取ることができる。		
授業内容	回	内容	
	1	この授業の進め方、ガイダンス	
	2	「長崎の文化活動について	
	3	「長崎の歴史と文化」ゲストスピーカーを迎えて	
	4	文化ホールに出かけ、実際にコンサートを鑑賞しよう①	
	5	「マスメディアと文化」ゲストスピーカーを迎えて	
	6	「長崎の音楽文化活動」	
	7	文化施設に出かけてみよう	
	8	「美術と音楽、そして芸術」	
	9	長崎音楽祭に参加してみよう	
	10	「美術と音楽①」ゲストスピーカーをお迎えして	
	11	「美術と音楽②」ゲストスピーカーをお迎えして	
	12	「文化芸術と長崎」	
	13	クリスマスの音楽	

	14 「長崎の音楽活動②」
	15 「長崎の音楽活動③」 ゲストスピーカーをお迎えして
	16 (予備)
キーワード	音楽文化、文化ホール、自主文化事業、音楽祭
教科書・教材・参考書	その都度指示します
成績評価の方法・基準等	推薦する文化施設訪問から2つを選択し、自分の意見を交えた芸術体験レポートを提出。レポートによる評価を行う。
受講要件（履修条件）	心を静めて芸術鑑賞ができること
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	芸術的な感性のトレーニング、芸術を鑑賞するための基礎知識の習得
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660050Q1	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(出島の科学)		
編集担当教員	和田 光弘		
授業担当教員名(科目責任者)	和田 光弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	和田 光弘, 中山 守雄		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-11		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	m-wada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	薬学部 医療情報解析学		
担当教員TEL	095-819-2451		
担当教員オフィスアワー	12:00-13:00		
授業のねらい	幕末から明治初期にかけ、出島を通して日本に近代科学・薬学をもたらした先人達、そして現代の日本の科学を先導したノーベル賞受賞者達の努力とその偉業への理解を深めることによって、現在、我々は何をなすべきかを考えるきっかけとする。		
授業方法（学習指導法）	座学ではスライドなどの教材を用いて学習項目の概要を説明する。このほか、体験実験、グループディスカッション、などの学習方式を用いて学生の理解を深めるとともに自己学習を促す。さらにプレゼンテーション、ディベートなどを課し、学生たちのコミュニケーション力、情報発信力の養成を図る。		
授業到達目標	出島を通して、日本に近代科学・薬学をもたらした人々やその定着に貢献した先達の業績を調査し理解する。そして現在、日本が到達した科学水準を、下村博士をはじめとする日本のノーベル賞受賞者の研究等を通して把握する。		
授業内容	1回：イントロ 中山（4/4） 講義概要、評価、班分け、自己紹介 2回：出島の化学1 講義 和田（4/11） 出島の化学の黎明期～導入・定着期の講義 3回：出島の化学1 演習 和田（4/18） 出島の化学の黎明期に活躍した人物の業績について調査 4回：出島の化学1 演習 和田（4/25） 出島の化学の黎明期に活躍した人物の業績について発表 5回：出島の化学2 演習 和田（5/2） 出島の化学の導入・定着期に活躍した人物の業績について調査 6回：出島の化学2 演習 和田（5/9） 出島の化学の導入・定着期に活躍した人物の業績について発表 7回：出島の化学3 演習 中山（5/16） 長与専斎、長井長義について調査 8回：出島の化学3 演習 中山（5/23） 長与専斎、長井長義について発表		

	<p>9回：日本におけるノーベル賞の系譜 講義 和田 (5/30) 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を解説</p> <p>10回：日本におけるノーベル賞の系譜 演習 和田 (6/6) 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を調査</p> <p>11回：日本におけるノーベル賞の系譜 演習 和田 (6/13) 日本における近年のノーベル賞受賞者の功績を発表</p> <p>12回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 講義 中山 (6/20) 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について講義+記念館見学</p> <p>13回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 演習 中山 (6/27) 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について調査</p> <p>14回：下村脩博士のノーベル化学賞受賞 演習 中山 (7/4) 下村脩博士のノーベル化学賞受賞について発表</p> <p>15回：発光に関する実験 和田 (7/11) 蛍光・化学発光に関する実験</p>
キーワード	近代科学・薬学史、長崎出島、ノーベル賞、下村 脩 博士
教科書・教材・参考書	参考書 出島のくすり 長崎大学薬学部編 九州大学出版会
成績評価の方法・基準等	積極的授業参加態度(40%)、レポート (40%)、小テスト(20%)
受講要件 (履修条件)	
本科目の位置づけ	教養科目
学習・教育目標	
備考 (URL)	
備考 (準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660050Q2	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(文学と社会)		
編集担当教員	堀井 健一		
授業担当教員名(科目責任者)	堀井 健一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀井 健一		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員研究室	教育学部本館6階611番研究室		
担当教員TEL	pericles_kh@yahoo.co.jp		
担当教員オフィスアワー	火曜日午後		
授業のねらい	<p>主題は西洋の古代ギリシアの歴史です。教養としての古代ギリシアの社会についての知識を学びます。外国の歴史を学ぶのは外国語文献を読むことから始まりますから、皆さんには英語の絵本のようなものを翻訳してもらいます。その作業によって「知ること」に対する態度を養います。翻訳で内容を理解した上で古代ギリシアの社会の特徴を学びます。</p>		
授業方法（学習指導法）	英文翻訳の予習，翻訳文の完成のためのグループディスカッション，古代ギリシア社会の考察を行ないます。		
授業到達目標	西洋の古代ギリシアの歴史，社会，文化の特徴を説明できるようにする。英語による歴史叙述を日本語で伝達できるようにする。		
授業内容	<p>S. Peach & A. Millard, The Greeks, Tulsa, 1990のイラスト世界史のシリーズ本を題材に使用します。あらかじめ課題プリントを配布するので翻訳と下調べの予習をしてもらいます。予習の内容を講義時にグループディスカッションしたりクラスで発表してもらいます。5つの主題についてレポートを提出してもらいます。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 Social structure～翻訳の検討 第3回 社会階層のまとめ 第4回 Democracy in Athens～翻訳の検討1 第5回 Democracy in Athens～翻訳の検討2 第6回 アテネ民主政のまとめ1 第7回 アテネ民主政のまとめ2 第8回 Sculpture～翻訳の検討 第9回 ギリシア彫刻の特徴 第10回 The theatre～翻訳の検討 第11回 ギリシア劇の特徴1</p>		

	第12回 ギリシア劇の特徴2 第13回 Learnig～翻訳の検討 第14回 小テスト, 学問のまとめ 第15回 古代ギリシア社会についてディスカッション
キーワード	
教科書・教材・参考書	教科書：P. レベック『ギリシア文明—神話から都市国家へ』創元社。参考書：伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』講談社, 山本茂他『西洋の歴史〔古代・中世編〕』ミネルヴァ書房, N. スパイヴィ『ギリシア美術』岩波書店。
成績評価の方法・基準等	古代ギリシアに関する教養的知識の小テスト(40点), レポート(50点), 授業中の発言や調べ物の発表(10点)
受講要件(履修条件)	原則として全回出席をしなければ単位は成立しない。ただし, やむを得ず(正当な理由で)欠席する場合は, 単元に応じた個別指導を行なう。
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660050Q3	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(環境と社会)		
編集担当教員	長島 雅裕		
授業担当教員名(科目責任者)	長島 雅裕		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	長島 雅裕		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	masahiro@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部413		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	地球温暖化のメカニズムや、放射性物質と環境との関係、エネルギー問題などを、自然科学的な側面からまずは理解する。その上で、対策の仕方に価値観が入り込むこれらの問題に対して、社会的な意思決定をどのようにすべきか考える。あわせて、随所に現れる疑似科学的な思考や商法を知ることを通して、批判的に考えることを学ぶ。		
授業方法（学習指導法）	主として講義形式で、微分方程式を含む簡単な数式も扱う。簡単な実験や、討論なども行う。		
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地球温暖化のメカニズムを理解できる。 ○放射線・放射性物質について理解できる。 ○科学的・批判的に物事を捉え、自分の意見を持ち、判断できる。 		
授業内容	回	内容	
	1	はじめに：社会における環境問題	
	2	地球温暖化(1)：地球の歴史と地球大気の生成	
	3	地球温暖化(2)：輻射の物理とオゾン層の役割、温室効果	
	4	地球温暖化(3)：大気の構造：理論	
	5	地球温暖化(4)：大気の構造：実験	
	6	地球温暖化(5)：温室効果ガスの増大と温暖化の被害	
	7	地球温暖化(6)：温暖化防止のためのとりくみ	
	8	放射線(1)：放射線・放射性物質・放射能	
	9	放射線(2)：放射線の測定と身の回りの放射線	
	10	放射線(3)：原子爆弾と核兵器	

	11 放射線(4)：原子力発電
	12 放射線(5)：放射線の健康への影響
	13 環境と疑似科学(1)：疑似科学的思考―事例を通して
	14 環境と疑似科学(2)：温暖化と放射線に関する疑似科学
	15 総合討論：私たちは何をすべきか
	16 試験
キーワード	環境、地球温暖化、放射線、疑似科学
教科書・教材・参考書	『やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識』 田崎晴明(朝日出版社) 『地球温暖化 ほぼすべての質問に答えます!』 明日香壽川(岩波ブックレット) 『疑似科学とのつきあいかた』 http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp/dspace/handle/10069/23093 よりダウンロード
成績評価の方法・基準等	授業への貢献20%、ミニレポート40%、試験40%
受講要件(履修条件)	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考(URL)	
備考(準備学習等)	高校物理の復習をしておいてください。参考書としては、たとえば『新しい高校物理の教科書』山本明利・左巻健男(講談社ブルーバックス)などがあります。



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660050Q4	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(被ばく者と医療)		
編集担当教員	三根 真理子		
授業担当教員名(科目責任者)	三根 真理子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三根 真理子, 中島 正洋, 宮崎 泰司, 赤星 正純		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	mmine@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医学部原研 2 階原研情報室		
担当教員TEL	095-819-7127		
担当教員オフィスアワー	火曜日17:00～19:00		
授業のねらい	原爆被災後の被災者の救護活動、人体への影響の実態、健康影響の追跡調査の結果とその治療状況を知り、被ばく者医療の過去・現在・未来を考察する。		
授業方法（学習指導法）	4人の講師がそれぞれの専門分野からみた原爆被ばくの人体影響について解説する。学生はそれを受けて、各自の考えを述べ合い、まとめる。		
授業到達目標	①原爆被ばくの人体影響を理解できる。 ②原爆被爆者の健康調査について理解できる。 ③原爆被災時の救護活動について理解できる。		
授業内容	回	内容	
	1	(4/5) 三根真理子：原爆と医療の概要	
	2	(4/12) 三根真理子：原爆直後の救護活動（1）	
	3	(4/19) 三根真理子：原爆直後の救護活動（2）	
	4	(4/26) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（1）	
	5	(5/10) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（2）	
	6	(5/17) 三根真理子：原爆直後の人体影響調査（3）	
	7	(5/24) 中島正洋：放射線被ばく急性障害	
	8	(5/31) 中島正洋：放射線とがん	
	9	(6/7) 宮崎泰司：原爆と血液疾患	
	10	(6/14) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（1）	
	11	(6/21) 赤星正純：原爆被爆者の疫学調査（2）	
	12	(6/28) 赤星正純：原爆被爆者の追跡（臨床的経過）	

	13	(7/5) 宮崎泰司：被ばく者への医療
	14	(7/12) 三根真理子：原爆被爆者の疫学調査（大学実施）
	15	(7/19) 三根真理子：まとめ
	16	
キーワード	原爆被ばく者、疫学調査、放射線の人体影響	
教科書・教材・参考書	授業計画に沿ってパワーポイント、ビデオを使用し、プリント、資料を配布する。参考書は講義の際に紹介する。	
成績評価の方法・基準等	全15回のレポート平均点および意見交換の発表状況を考慮して評価する。なお講義の順番は変更になる場合もある。	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660050Q5	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(環境と社会)		
編集担当教員	星野 由雅		
授業担当教員名(科目責任者)	星野 由雅		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	星野 由雅		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	hoshino@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部4階 4 1 5 研究室		
担当教員TEL	095-819-2332		
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	環境と社会がどのように関わっているかを環境基本法などで大まかに捉え、具体例として環境要因がどのように環境や人間に影響を与え、社会が、それをどのように扱って行けば良いのかを各種の規制法等を通して考える。また、ドイツの環境と社会との関わりを多角的に調べ、日本の環境と社会との関わりのあるべき姿を探る。		
授業方法（学習指導法）	受講者自らが課題を設定し、その課題を解決するために、教科書、配布資料、参考書等で学習するとともに、課題と課題解決のために学習した内容をレポートとし、発表する。また、学習した内容に応じてプレゼンテーションを学生自らが行う。授業中に学習内容の定着度を図る目的で小テストを数回課す。		
授業到達目標	環境と社会と関わりについて、法的な知識と理解度を高めると共に、現代社会の中で環境要因が具体的にどのように環境や人間に影響を与え、社会がそれをどのように扱って行けば良いのかを多角的に調べ、環境と社会との関わりのあるべき姿を述べるができるようになる。		
	回	内容	
	1	オリエンテーションとイントロダクション。受講者自らが興味を持つ、環境問題を挙げる課題（事項と内容）を指示する。【課題：個人レポート】	
	2	班に分かれて、各受講者ごとに挙げた環境問題を選定した理由を班員に説明する。次に、挙げた環境問題の内容を理解するために必要な学習事項（法規や関連事項）を挙げる課題を指示する。受講者から質問があれば、学習事項の例とその内容について説明する。【課題：個人レポート】	
	3	班に分かれて、各受講者ごとに学習事項（法規や関連事項）を発表し、班員全員が必須と考える学習事項を選定する。班ごとに必須となった学習事項を理由と共に発表する。クラス全体での必須学習事項を受講者間の議論により選定する。必須学習事項について各受講者が学習してくる。【課題：個人レポート】	
	4	班ごとに必須学習事項について学習してきた内容を班内で各受講者が発表を行う。班内でテーマを1つに選定し、その内容についてクラス全体にわかるように説明するための	

授業内容		準備を行う。	
	5	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（1） 教員による補足説明。	
	6	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（2） 教員による補足説明。	
	7	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（3） 教員による補足説明。	
	8	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（4） 教員による補足説明。	
	9	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（5） 教員による補足説明。	
	10	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（6） 教員による補足説明。	
	11	各班ごとに必須学習事項1つについて、発表（7） 教員による補足説明。	
	12	前回と前々回の授業で取り上げた必須学習事項に関する小テスト 小テストの解説。 各受講生が課題とした法規、環境と社会との関わりを示した具体例の説明レポートの作成を指示。【課題：個人レポート】	
	13	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。	
	14	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。	
	15	班に分かれて、各受講生が作成した説明レポートを班内で発表。その後、班の代表者がクラス全体に対して説明レポートを基に発表。	
	16	定期試験	
	キーワード	環境基本法、環境基準、化学物質のリスク、ドイツの環境事情、環境教育	
	教科書・教材・参考書	参考書1：谷村賢治・齋藤 寛編著「環境知を育む」税務経理協会 参考書2：及川 紀久雄・北野 大共著「人間・環境・安全—くらしの安全科学」共立出版	
	成績評価の方法・基準等	授業中の小テスト、課題レポート、発表、定期考査を行って評価する。評価割合は、定期考査50%、授業中の小テスト20%、課題レポート20%、発表10%とし、総合点で評価する。合格基準は、総合点で60%以上とする。	
受講要件（履修条件）	定員を80名までとします。		
本科目の位置づけ	「環境と社会」との関わりは、教育者として必須の教養項目である。学校教育の中では、教科内だけでなく学校生活全般を通して教授することが求められる。		
学習・教育目標	環境と社会との関わりについて受講者が備えておくべき学習事項を自ら設定することで、主体的な学習姿勢を育成することと知識獲得を目標とする。		
備考（URL）			
備考（準備学習等）			



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火 4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660050Q6	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(文学と社会)		
編集担当教員	中島 貴奈		
授業担当教員名(科目責任者)	中島 貴奈		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中島 貴奈		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-42		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	takanan		
担当教員研究室	教育学部652		
担当教員TEL	必要があればお知らせします		
担当教員オフィスアワー	授業中にお知らせします		
授業のねらい	<p>教員になるうえで身につけておきたい漢字の常識について学び、漢字の調べ方を知ること。 漢文学が日本文学に与えた影響を具体例を通して知り、両者を比較して鑑賞できるようになること。 漢文を、日常生活にも即した身近な問題と関連づけて読むことができるようになること。 文学作品の鑑賞文を書き、他者に伝えることができるようになること。</p>		
授業方法（学習指導法）	<p>授業は、概説的な内容の講義と、受講者の発表・討議を含む演習形式をまぜて行います。 受講者には毎回、次回の授業に関する課題を出しますので、あらかじめ準備をしてきてください。 準備してきた内容にもとづいて、授業を行います。</p>		
授業到達目標	<p>日本の文化・文学などにおける中国からの影響を具体的に説明することができる。 文学作品を読んでさまざまな視点から鑑賞し、鑑賞文を書くことができる。 比較文学の手法を身につけ、作品を鑑賞できる。 漢文を身近な問題と結びつけて読むことができる。</p>		
	回	内容	
	1	オリエンテーション 身の回りの漢字・漢文学に関する問題探し	
	2	漢字①中国の漢字と日本の漢字・仮名	
	3	漢字②使える漢字と使えない漢字～新聞の不自然表記はなぜ	
	4	漢字③名前の漢字～名前をつけるなら	
	5	漢字④まとめ	
	6	漢文学①日本文学と漢文学（概説1）	

授業内容	7	漢文学②日本文学と漢文学（概説2）
	8	漢文学③日本文学と漢文学～比較してみよう1
	9	漢文学④日本文学と漢文学～比較してみよう2
	10	漢文学⑤日本文学と漢文学～比較してみよう3
	11	漢文学⑥日本文学と漢文学～比較してみよう4
	12	漢文学⑦日本文学と漢文学 まとめ
	13	漢文学⑧こんなとき、漢文ではどう考えるか 1
	14	漢文学⑨こんなとき、漢文ではどう考えるか 2
	15	漢文学⑩長崎と漢文学
	16	
キーワード	漢字、漢詩、漢文、日中比較文学、長崎学	
教科書・教材・参考書	阿辻哲次『漢字と日本人のくらし』（大修館書店）、高島俊男『漢字と日本人』（文春新書）、大島正二『漢字伝来』（岩波新書）、村上哲見『漢詩と日本人』（講談社選書メチエ）、若林力『江戸川柳で愉しむ中国の故事』（大修館書店）、加藤徹『漢文力』（中公新書）その他授業中に紹介します	
成績評価の方法・基準等	毎回の課題に対する準備内容（30%） 授業時の討議への参加態度・発表内容（40%） 小レポートの内容（30%）	
受講要件（履修条件）	漢字や漢詩漢文に興味をもっていること	
本科目の位置づけ	教員になるうえで知っておきたい漢字の常識や漢文学の基礎知識を扱う	
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）	参考資料やインターネットを利用して準備をし、授業にのぞむこと 漢和辞書（電子辞書も可）を必ず持参すること	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660050Q7	科目番号	05660050
授業科目名	●社会と歴史(社会学)		
編集担当教員	南 誠		
授業担当教員名(科目責任者)	南 誠		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	南 誠		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	社会学の基礎知識と社会を捉えるための方法を習得することにある。		
授業方法（学習指導法）	基本的には、パワーポイントを用いた講義形式による。		
授業到達目標	社会学の考え方と方法の習得をとおして、現代社会を理解・研究するための力を身につけることができる。		
授業内容	回	内容	
	1	イントロダクション	
	2	社会学の視点	
	3	親密空間と公共空間	
	4	空間と対人関係	
	5	自己と相互行為	
	6	家族とライフコース	
	7	組織と職業	
	8	メディアとコミュニケーション	
	9	歴史と記憶	
	10	国家とグローバリゼーション	
	11	エスニシティと境界	
	12	社会的包摂と排除	
	13	映像資料で社会学	
14	グループ議論		

	15	まとめ
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	教科書はとくに指定しない。授業のなかで適宜に課題文献を紹介する。	
成績評価の方法・基準等	定期試験(80%)、授業および討論への参加度(20%)	
受講要件(履修条件)		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考(URL)		
備考(準備学習等)		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4						
開講期間									
必修選択	選択	単位数	2.0						
時間割コード	201305660070Q1	科目番号	05660070						
授業科目名	●法と政治(核軍縮の法と政治)								
編集担当教員	広瀬 訓								
授業担当教員名(科目責任者)	広瀬 訓								
授業担当教員名(オムニバス科目等)	広瀬 訓, 西田 充								
科目分類	人文・社会科学科目								
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目						
教室	[教養A棟]A-12								
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者								
担当教員Eメールアドレス	shirose@nagasaki-u.ac.jp								
担当教員研究室	核兵器廃絶研究センター 2階								
担当教員TEL	内線 2204								
担当教員オフィスアワー	水曜日 3・4限 もしくはアポイントメント								
授業のねらい	昨年度モジュールIで学んだ核兵器と国際社会に関する基礎的な知識と理解のうえに、核兵器をめぐる国際政治と国際法のより具体的なトピックを検討することで、核兵器と平和の問題を深く掘り下げて検討することを目的とします。そして、受講する学生一人一人が、現在の国際社会に生きる一人の人間として、「核」という人類の抱える最大の問題の一つと向き合う姿勢を養うことができると考えています。								
授業方法（学習指導法）	担当教員による講義と、学生からの意見の発表およびグループディスカッションを組み合わせた授業にする予定です。できるだけ毎回リアクションペーパー等を通して、受講する学生が自分の意見を組み立て、表現する機会を増やしたいと思います。								
授業到達目標	<p>具体的な到達目標としては、①核軍縮をめぐる国際政治、国際法に関する基礎的な事実や概念を理解する、②核兵器をめぐる現実つを理解することにより、核兵器と国際社会の持つ特徴を把握する、そして、③核兵器を廃絶するために適切と思われる手段を自分なりに構築する、の三点について、その成果を少なくとも同じ講義を受講している他の学生に対し、説得的に提示できるようになることを期待しています。</p> <p>核兵器をめぐる国際政治と国際法について、総論的にその背景と基本的な概念、議論の枠組みを提示した後、具体的にいくつかの代表的な条約や国際交渉について検討します。また、西田充客員准教授（外務省）を招いて、核軍縮の現状についての講義も計画しています。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	はじめに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か	2	②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観
回	内容								
1	はじめに：授業の進め方 ①「核兵器」に関する伝統的な考え方 ・パワーバランスとは何か ・「抑止」とは何か								
2	②「核兵器」と「安全保障」 ・「安全保障」とは何か ・伝統的な安全保障観								

授業内容	3	③「軍縮」・「軍備管理」・「不拡散」 ・「軍縮」とは何か ・「軍備管理」とは何か ・「不拡散」とは何か	
	4	④核兵器の削減 ・国際社会の取組 ・二国間の取組 ・地域的取組	
	5	⑤核不拡散条約（その1） ・成立の背景と経過 ・内容と特徴	
	6	⑥核不拡散条約（その2） ・延長会議 ・再検討プロセス ・現状と問題	
	7	⑦核実験の禁止 ・部分的核実験禁止条約 ・包括的核実験禁止条約	
	8	⑧非核兵器地帯 ・非核兵器地帯とは ・世界の非核兵器地帯 ・北東アジア非核兵器地帯提案	
	9	⑨新しい核軍縮の試み ・兵器用核分裂性物質生産停止条約 ・核兵器不使用条約 ・核兵器禁止条約	
	10	⑩核兵器と国際人道法 ・国際人道法とは ・核兵器は国際法違反か	
	11	⑪核軍縮交渉の舞台 ・ジュネーブ軍縮会議 ・国連総会および第一委員会 ・国連軍縮特別総会	
	12	⑫核軍縮交渉の現状と問題点（西田客員准教授） ※予定	
	13	⑬核軍縮交渉の展望（西田客員准教授） ※予定	
	14	⑭核軍縮と世論 ・核軍縮交渉と市民 ・私たちにできること	
	15	⑮まとめ	
	16		
	キーワード	軍縮、不拡散、軍備管理、外交交渉、国際法	
	教科書・教材・参考書	テキストは指定しません。主な参考書は下記です： 黒澤満編著 『軍縮問題入門 第4版』 東信堂 黒澤満 『核軍縮入門』 信山社 黒澤満 『核軍縮と世界平和』 信山社 藤田久一 『核に立ち向かう国際法』 法律文化社	
成績評価の方法・基準等	出席点及び講義の際の提出物、リアクションペーパー、意見発表などの平常点が40%、期末のレポートが60%です。		
受講要件（履修条件）			
本科目の位置づけ	「核兵器のない世界」を実現するうえで、現実とそのプロセスの中心舞台となっている国際政治と国際法の現実を取り上げる。		
	「核軍縮」という現代の具体的に問題に関する基礎的な知識を理解し、それに対し、自主的、		

学習・教育目標	批判的に意見を構築し、提示する能力を養う。
備考 (URL)	http://www.recna.nagasaki-u.ac.jp/
備考 (準備学習等)	



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660070Q2	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(資源・エネルギー問題への取組み)		
編集担当教員	山下 敬彦		
授業担当教員名(科目責任者)	山下 敬彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山下 敬彦, 藤本 登, 嶋野 武志		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-12		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	yamac@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	工学部2号館E-405		
担当教員TEL	095-819-2539		
担当教員オフィスアワー	別途指示する。		
授業のねらい	環境問題に対する考え方、環境法（国際法）の歴史と特質を理解させるとともに、境問題の基本的考え方や国際環境法の理念・精神を理解させ、人類の持続可能な発展を実現するための基本的な知識と姿勢を身につけさせる。合せて、自主的探求能力や日本語コミュニケーション能力の向上等を目指す。		
授業方法（学習指導法）	予習課題を基にした討論と解説		
授業到達目標	環境問題に対する考え方、環境法（国際法）の歴史と特質を理解させる。国際環境法の理念・精神を理解させる。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：科目の概要、狙い、位置づけ、到達目標、授業の方法、各単元の到達目標、評価方法等を理解する。	
	2	Ⅰ環境問題をどのように考えるか：環境問題とは？環境をどのように考えるか？（環境に対する基本的な考え方、環境倫理）等について考え、それらを簡潔にまとめる。	
	3	Ⅱ国際環境法の歴史と特徴：二国間における紛争の平和的解決の条約から「部門別アプローチ」の国際環境法を経て、国際共同体全体の利益を管理する取組みへと移行した歴史と、現代の国際環境法の特質等を理解し、簡潔にまとめる。	
	4	Ⅲ人間環境宣言：二国間における紛争の平和的解決のための条約から「部門別アプローチ」のタイプの国際環境法への転機となった国際連合人間環境会議における「人間環境宣言」の主旨を理解し、簡潔にまとめる。	
	5	Ⅳ第一世代の国際環境法：第一世代の代表的な国際環境法であるラムサール条約、ユネスコ世界遺産条約及びワシントン条約の主旨を理解し、簡潔にまとめる。	
	6	Ⅴ第二世代の国際環境法（その1）：第二世代の代表的な国際環境法のうち、ウイーン条約とそれに附属するモントリオール議定書の主旨を理解し、簡潔にまとめる。	

授業内容	7	V 第二世代の国際環境法（その2）：第二世代の代表的な国際環境法のうち、バーゼル条約の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
	8	V 第二世代の国際環境法（その3）：第二世代の代表的な国際環境法のうち、気候変動枠組条約及びその第3回締約国会議で作成された京都議定書の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
	9	V 第二世代の国際環境法（その4）：第二世代の代表的な国際環境法のうち、生物多様性条約及びそれに附属するカルタヘナ議定書の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
	10	V 第二世代の国際環境法（その5）：第二世代の代表的な国際環境法のうち、砂漠化対処条約及び環境保護に関する南極条約議定書の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
	11	V 第二世代の国際環境法（その6）：第二世代の代表的な国際環境法のうち、ロッテルダム条約及びストックホルム条約の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
	12	VI ソフト・ロー（その1）：ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書の役割とそれらの文書のうち、世界自然憲章、森林原則宣言及び環境と開発に関するリオ宣言の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
	13	VI ソフト・ロー（その2）：ソフト・ロー的な法的拘束力のない文書のうち、アジェンダ21及び持続可能な開発に関するヨハネスブルク宣言の主旨を理解し、簡潔にまとめる。
	14	VII 非政府組織の参加と国際環境法の課題：現代の国際環境法の特質の一つである私的アクター、すなわちNGO（非政府組織）の存在とその組織及び活動について理解を深める。また、気候変動枠組条約と途上国、国際環境法間の連携、環境と貿易などの国際環境法の課題を理解し、簡潔にまとめる。
	15	テスト・レポートのまとめ：テストによる知識の定着の確認を行う。また、環境法（国際法）と環境問題への取組みのまとめを完成させる。ポイント：もれなく、ダブリなく、分かりやすく簡潔に自分の言葉でまとめる。
	16	総括：講義の評価を行い、改善点等について議論する。
キーワード	環境に対する考え方、国際環境法、国際環境法の歴史と特質	
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。教材はPDFファイルで提供する。参考書は適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	予復習課題30％、試験20％、レポート50％で評価し、60％以上を合格とする。	
受講要件（履修条件）	特になし。	
本科目の位置づけ	教養科目	
学習・教育目標	環境問題に対する考え方を説明できる。国際環境法の歴史と特質を説明できる。国際環境法の理念・精神を説明できる。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	特になし。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	集中（前	曜日・校時	時間割外
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660070Q3	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(私たちと法)		
編集担当教員	江口 勇治		
授業担当教員名(科目責任者)	江口 勇治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	江口 勇治		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室			
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	guchiyu@human.tsukuba.ac.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業のねらい	授業のねらいは、日常生活において求められる法・ルール・きまりの意義やその指導の在り方を考えることから、今求められるリーガル・リテラシーの基礎について、「法教育」の側面から実際にとらえることである。なお授業者は法律学の専門家ではなく、小・中・高校での法教育を訴えてきた教育学の研究者でありその角度から「法」を考える。		
授業方法（学習指導法）	アメリカの小学校で作られたテキストを利用して、「正義・公正」「責任」「権威」「自由」「幸福」などの観念を、日常に生活の実態に移して実際的に考えさせる。授業では設問を用意し、それについて対話するという形式を随時取り入れた。また「法的な見方や考え方」の模擬授業も可能なら計画する。		
授業到達目標	法律学の素人であっても、法・ルール・きまりに向き合うことを理解し、人々とともに規範を共有することの意義と限界を考えられることをこの授業のもっとも基礎的な到達点とする。あわせて一層、法・司法などへの専門的な興味・関心が高まることもねらいたい。		
	集中講義のため、講義をおおよそ四つもパートにわけて、授業内容にメリハリをつける。具体的には、①では「法的な見方や考え方」に向き合うことを共有する講義を実施する。②では、「私たちと法」のテーマとして「正義」「責任」「権威」「自由」について、日常での設問からその実際をそれぞれに考えさせる。③では、そこで共に議論された内容をより深めるために、法的な見方や考え方としてとらえさせる。④では互いに確認されたことを「子供たちに教育する」という視点に立って模擬的な授業をつくりあげる。なおこれまで実施してきた法教育の取り組みや授業の実際についてビデオ等を視聴することも設定する。		
	回	内容	
	1	第一回 オリエンテーション 「私たちと法」の科目の意義と「法教育」についての説明を行う。	
	2	第二回 法教育のこれまでの取り組みと法曹三者の法教育への関与等についての概略を示すとともに、新学習指導要領での法教育の位置づけを講義する。	
	3	第三回 アメリカのテキストを参考に「正義」「責任」を法や司法の側面から考えるこ	

授業内容		との意義を理解するとともに、その共有の仕方等について考える。	
	4	第四回 同様に「権威」『自由』のテーマをもとに話し合い、あわせて我が国の子供たちが学ぶべき「公正」「幸福」「正義」などについて学校教育の側面からとらえることの意義を講義する。	
	5	第五回 「正義」のもとで「私たちと法」の論点から、日常的にな事例を設定し、その問題への向き合い方や解決方法等を互いに話し合い、整理することを通じて「正義」や「公正」の日常的な価値を法とのかかわりからとらえる。	
	6	第六回 『責任』をとらえることの意味を同じように「日常性」から考える設問を設定し、それについての論議を通じて、法的な『責任』とその他の『責任』の異同について互いに話し合う。	
	7	第七回 「権威」『自由』について、政治的な見方、経済的な見方、法的な見方からそれぞれの社会的価値を考えるとともに、私たちの生活においてそれぞれの有効性を、個別具体的な事例をもとに話し合い、法的な見方の特徴を共有する。	
	8	第八回 以上の議論整理の中から重要と思われる具体的な紛争・対立的な構図をより実際にお互いに話し合い、問題の整理とその解決に向けた取り組みを行う。なおここではおもに学校での教育や教材を想定して、その題材を設定する。	
	9	第九回 第八回と同じ形式で、具体的な問題をもとに、法的な思考をとらえることの意義を私たちの生活との関わりから考える。なお公的なことと私的なことの違いについての理解を深める工夫を合わせて行う。	
	10	第十回 小・中・高校のそれぞれの学校段階を想定して、「私たちと法」ということで重要と思われる題材や教材をお互いにつくり模擬授業を実施し、その評価を話し合い、その修正を行う。	
	11	第十一回 第十回と同じような活動や作業を実施し、「法」を現代において観念し共有する意義と問題点、限界などを話し合う。	
	12	第十二回 これまでの授業を整理するとともに、法的な事柄を超えて向き合い、物事を進めようとする人々の活動や考え方にも着目して、「私たちと法」の関係を多面的に考えることの大切さを理解する。	
	13	第十三回 法教育の在り方を学校教育ばかりでなく、生涯学習社会の教育の在り方としても考える視点を持ち、日常に生きる人々にとっての法的な見方や考え方の意義や可能性について、教材という形で成果を構想する。	
	14	第十四回 「私たちと法」という観点の持つ意味を、地域的に考え、社会の安心等に資する学び方の方向性を提案する。あわせて国際的にも考える必要性についても話し合い、その論点を整理する。	
	15	第十五回 ある具体的な紛争的な問題を設定し、対話・対審的に議論し、審議することから生まれる法的な見方や考え方の価値を検討する。	
	16	第十六回 具体的な課題に対して、レポートを提出し、文書として論点を整理、保存することの意義を学ぶ。	
	キーワード	法的な見方や考え方 法教育 リーガル・リテラシー	
	教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜資料を印刷し、配布する。	
成績評価の方法・基準等	授業へ参加・貢献度(30%)、講義での小レポートの評価(20%)、レポート(50%)をもとに、総合的に評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)			



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660070Q4	科目番号	05660070
授業科目名	●法と政治(ジェンダーと法)		
編集担当教員	植木 とみ子		
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-21		
対象学生（クラス等）	全学生		
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@fcv.ne.jp		
担当教員研究室	非常勤講師室		
担当教員TEL	092-521-6851		
担当教員オフィスアワー	上記または 090-4994-5830 にTELして、ご相談下さい		
授業のねらい	いまだ男女共同参画が実現していない現代日本社会にあって、ジェンダーバイアスとは何かを見る目を養い、バイアスにとらわれていることで、日本人がいかに精神的、経済的に貴重なものを逃しているかに気づいていただきます		
授業方法（学習指導法）	基本的には講義ですが、みなさんに自分で考えていただくために演習形式も取り入れて、できるだけ多く質問を投げかけ、一緒に考えて行きたいと思っています。みなさんには積極的に参画していただきたいと思います		
授業到達目標	<p>すぐにはものの見方、考え方が変わるとは思われませんが、少なくとも身の回りの事象を歴史的大局的に見る訓練をする事により、グローバルスタンダードを持ち、今の日本の閉塞状況を打ち壊すことができるような、自立した大人になるお手伝いをします</p> <p>「第一部 ジェンダーはどう形成されてきたか（1～5）」では、過去の男女のジェンダー役割とその変遷を振り返ります 「第二部 男女共同参画社会形成への道（6～8）」では、国際婦人年をきっかけにした女子差別撤廃から男女共同参画までの世界と日本の歩みを見ます 「第三部 いまだ残る問題点（9～14）」では、わが国においていまだ根深くある様々なジェンダーバイアスの実態を知り、そのことがいかに社会問題を引き起こしているかを検証します 「第四部 真の男女共同参画社会の実現に向けて（15）」では、ジェンダーバイアスにとられない、しなやかな生き方ができるための方策を探ります あらかじめ決まったテキストはありません。毎回プリントを配布しますし、関連した文献を紹介します</p>		
	回	内容	
	1	歴史に見る男女の姿（古代・未開社会と母系制、封建社会における男性優位主義）	
	2	明治から昭和初期の女性（天皇制家族国家体制下での男性と女性、作られた「良妻賢母主義」）	

授業内容	3	戦後の解放（憲法、民法改正の中での女性の地位、女性の社会進出）
	4	高度成長期における男性と女性（マイホーム主義、男女の役割分担の拡大最生産）
	5	世界史での女性差別（ハムラビ法典から近代市民社会成立期まで）
	6	世界的な女性解放の潮流（国際婦人年をきっかけに、「女子差別撤廃条約」登場の背景）
	7	世界の現状（北欧先進諸国の女性たち、開発途上国の女性たち）
	8	日本の取組み（国の「婦人問題企画推進本部」設置から、「男女雇用機会均等法」制定の舞台裏、地域での取組み）
	9	ジェンダーと法制度（憲法における平等保障、皇室典範や民法にいまに残る男系主義）
	10	ジェンダーと政治（政治はだれのもの、日本の女性議員の割合は世界でも超低レベル）
	11	ジェンダーと雇用（女性の平均賃金は男性の半分、女性が働き続けられないワケ）
	12	ジェンダーと福祉・社会保障（女性たちはなぜ子どもを産まないか、主婦の年金は誰が払うの？）
	13	ジェンダーと家族（夫と妻の役割、いま子どもが育っていない！）
	14	ジェンダーと性（リプロダクティブ・ライツ、ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント）
	15	新たな生き方の提示（高齢社会は資源の宝庫、一度の人生を悔いなく生きる）
	16	定期試験
	キーワード	
	教科書・教材・参考書	プリント配布、そのつど参考文献を紹介する
成績評価の方法・基準等	授業での積極的発言、毎回の短い感想文、定期試験の成績を総合評価する	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q1	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(社会制度と経済活動)		
編集担当教員	神菌 健次		
授業担当教員名(科目責任者)	神菌 健次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	神菌 健次		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	k-kamiz@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	個別対応。各自メールにて日時予約のこと。		
授業のねらい	現代の金融の世界で最早常識となっている程度の資産選択理論の基礎を理解する。		
授業方法（学習指導法）	講義		
授業到達目標	多期間にわたる消費者・企業の意味決定問題を解けるようになること、債券や株式等の金融資産価値評価ができるようになること、平均・分散アプローチを用いて最適ポートフォリオ選択問題を解けるようになること、資産の市場リスクと期待収益率との関係を理解し、資産価値評価や資産選択に応用できるようになること、金融派生証券を用いて、状況に応じた適切なリスク管理手法を提示できるようになること。		
授業内容	第1回 利子率と割引現在価値 第2回 消費と貯蓄に関する意思決定 第3回 債券と株式の評価1 第4回 債券と株式の評価2 第5回 ポートフォリオのリスクとリターン 第6回 ポートフォリオ選択の平均・分散アプローチ1 第7回 ポートフォリオ選択の平均・分散アプローチ2 第8回 資本資産評価モデル1 第9回 資本資産評価モデル2 第10回 先物取引とリスクヘッジ 第11回 先物ポジションの複製と先物価格理論 第12回 オプション取引の基礎 第13回 オプション価格理論1 第14回 オプション価格理論2 第15回 最近の話題から(バリュー・アット・リスク、信用リスク、リアル・オプション、天候デリバティブなどを候補として予定) 第16回 総括		

キーワード	
教科書・教材・参考書	テキストは使用しない。参考書として、 1. ボディ&マートン『現代ファイナンス論』改訂版 ピアソン・エデュケーション 2. 三浦良造『リスクとデリバティブの統計入門』日本評論社 3. 久保田敬一『よくわかるファイナンス』東洋経済新報社 を挙げておく。
成績評価の方法・基準等	定期試験100%
受講要件（履修条件）	
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q2	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(経営情報と会計情報)		
編集担当教員	岡田 裕正		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 裕正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 裕正		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	h-okada@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所307		
担当教員TEL	352		
担当教員オフィスアワー	講義終了後		
授業のねらい	企業が公表する会計情報の中心は貸借対照表と損益計算書に代表される財務諸表である。これらは、自治体や非営利組織でも公表され始めている。この講義では、企業（商業を中心とする）の会計情報を通じて、企業の経営状況を読む基礎を理解する。		
授業方法（学習指導法）	講義では、第1～第8回目は、教材として配布する流通企業の財務諸表を用い、その主要な語句の説明や基礎知識を講義する。それを踏まえて、9回目以降は、各自またはグループに分かれて、課題等に取り組んでもらい、発表等をしてもらう。（ただし下記授業内容は予定であり、進捗状況によって変更する可能性がある。） また、可能であれば、適宜新聞記事等を用いて、最近の話題についてとりあげ、この講義で学んだことがどのように役立つかについて考えてもらいたい。		
授業到達目標	企業が公表する貸借対照表と損益計算書の主要な項目の意味と、それに基づいて企業経営の状況を理解できる		
	回	内容	
	1	イントロダクション：企業会計と財務諸表 「経済活動あるところ会計あり」 企業だけが財務諸表を作るわけではない	
	2	財務諸表の技術的基盤：簿記の概要 500年以上変わらない独特の記録計算の仕方	
	3	財務諸表を取り巻く制度：日本の会計制度と国際的な動向 会計にもグローバル化の波（コンバージェンス、アドプション、コンドースメント）	
	4	貸借対照表の主な項目（1）：流動資産 商品と製品は違う 会計の世界の現金と日常用語の現金は違う	
	5	貸借対照表の主な項目（2）：固定資産	

授業内容		スーパーやデパートの土地と不動産会社の土地、どちらが固定資産？	
	6	貸借対照表の主な項目(3)：負債(社債と引当金) 負債もいろいろあるが、社債と引当金の意味を中心に	
	7	貸借対照表の主な項目(4)：純資産(株主資本、評価換算差額) 資本金は現金ではない、最初に持っていた金額＝利益計算の基準値	
	8	損益計算書の主な項目：売上総利益、営業利益、経常利益、税引前当期純利益、当期純利益 最終黒字(赤字)と経常黒字(赤字)、一口に「儲かった」というがその意味は？	
	9	財務諸表を眺める：これまでの知識に基づいて、配布した資料から読めること	
	10	財務諸表分析(1)：流動比率、当座比率、自己資本比率、固定比率、長期適合比率 支払い能力をどうみる？ 会社の安定性をどうみる？	
	11	財務諸表分析(2)：ROEとROI(ROA)その1 収益性があるとかないとかいうけど、どういう意味か	
	12	財務諸表分析(3)：ROEとROI(ROA)その2 収益性を分解してみる	
	13	財務諸表分析(4)：損益分岐点分析 どこまで売れば採算はとれるか？	
	14	分析結果の解釈：これまでの計算結果をどう読むか？	
	15	そのほかの財務諸表：キャッシュフロー計算書 貸借対照表と損益計算書だけが財務諸表ではない	
	16	最終試験	
	キーワード	貸借対照表、損益計算書、資産、負債、純資産、収益、費用、損益	
	教科書・教材・参考書	テキストは特に使用しないが、商企業が公表する財務諸表(またはそのひな型)を教材として最初の講義で配布する。可能であれば、新聞記事等も配布する。 参考書：永野則雄『ケースブック会计学入門』新世社 田中建二『財務会計入門』中央経済社	
	成績評価の方法・基準等	発表等の講義に臨む姿勢(10%)、レポート又は課題(30%)、最終試験(60%)により評価する	
	受講要件(履修条件)	前提知識はとくに問わないが、経済や企業について広い関心のある者、先人や他者から謙虚に学び、学習を進めていくことに関心のある者の受講を希望する。また、新聞や日々のニュースに耳を傾けることが、社会現象の観察眼・批判的思考力を向上させる機会となることを念頭に受講しなければならない。	
本科目の位置づけ	この講義では企業会計を対象とするが、会計は学校、自治体、病院等にもある。その基本が企業会計である。		
学習・教育目標			
備考(URL)			
備考(準備学習等)	第1回目の講義では、皆さんが持っている会計のイメージを聞くので、準備しておくこと		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q3	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(地域社会と日本経済)		
編集担当教員	柴多 一雄		
授業担当教員名(科目責任者)	柴多 一雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴多 一雄		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	shibatak@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館5階510室		
担当教員TEL	095-820-6346		
担当教員オフィスアワー	毎週火曜日14:30～16:00		
授業のねらい	歴史的な観点から現代の社会や経済に対する理解を深める。		
授業方法（学習指導法）	テキストは用いず、配布資料と板書を中心に、講義形式で行う。		
授業到達目標	日本の地域社会の発展や経済の歩みを論理的に考察できる。		
授業内容	日本の社会・経済が持つ独自性や強み、日本経済の歩みを振り返り、日本や地域の固有の経済問題を考察する。具体的には、長崎や福岡といった地域の社会経済の発展の歴史を、地域をとりまく世界や日本の歴史の中に位置付けながら、地域の発展の要因や今後の都市のあり方について考察する。		
	回	内容	
	1	はじめに	
	2	中世の国際貿易都市博多	
	3	大航海時代の長崎	
	4	城下町福岡	
	5	貿易都市長崎	
	6	近代都市長崎	
	7	近代の福岡	
	8	中間のまとめ	
	9	戦争と福岡	
	10	戦争と長崎	
	11	戦後長崎の復興	
12	戦後福岡の発展		

	13	現在の長崎市
	14	現在の福岡市
	15	まとめ
	16	定期試験
キーワード	地域 社会 経済 歴史 長崎 福岡	
教科書・教材・参考書	教科書：使用しない。 推薦書：必要の応じ適宜紹介する。	
成績評価の方法・基準等	予復習課題30% 授業参加20% 試験20% レポート30%	
受講要件（履修条件）	特になし	
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q4	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(企業行動と戦略)		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	trikiya@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	東南アジア研究所 308室		
担当教員TEL	095-820-6355		
担当教員オフィスアワー	基本的には授業終了後ですが、その他の時間についても可能な限り対応します。		
授業のねらい	経営学の基礎的な概念について理解すること。組織内、組織外での行動や、企業の経営戦略の概念を理解し、実際の企業行動についての知識・思考力を養う。		
授業方法（学習指導法）	板書を中心とする。また、ビデオ教材やニュースなどの映像資料を用いることもある。さらに、特定の課題についてフロア全体でディスカッションすることもある。		
授業到達目標	経営に関する諸問題について、自分なりの解釈ができるようになること。		
授業内容	第1回 インTRODakション 第2回 経営学の全体像 第3回 株式会社の仕組み① 第4回 株式会社の仕組み② 第5回 日本の雇用制度の仕組み 第6回 競争戦略のマネジメント：基本的な考え方 第7回 競争戦略のマネジメント：違いを作る3つの基本戦略① 第8回 競争戦略のマネジメント：違いを作る3つの基本戦略② 第9回 多角化戦略のマネジメント 第10回 国際化のマネジメント 第11回 組織構造のマネジメント① 第12回 組織構造のマネジメント② 第13回 モチベーションのマネジメント① 第14回 モチベーションのマネジメント② 第15回 授業のまとめ		

キーワード	企業行動、経営組織、経営戦略
教科書・教材・参考書	教科書は特に指定しない。
成績評価の方法・基準等	定期試験100%
受講要件（履修条件）	なし
本科目の位置づけ	
学習・教育目標	
備考（URL）	
備考（準備学習等）	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q5	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(国際社会と日本経済)		
編集担当教員	成田 真樹子		
授業担当教員名(科目責任者)	成田 真樹子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	成田 真樹子		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-24		
対象学生（クラス等）	教育学部, 薬学学部, 水産学部		
担当教員Eメールアドレス	makki@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部・東南アジア研究所319		
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	随時（要事前連絡）		
授業のねらい	経済活動は国境を超える。輸出入やお金の移動, 労働者の移動などの問題を通じ, グローバル化による効果と課題について理解する。		
授業方法（学習指導法）	世界経済の様々な事象について講義とグループ学習によって課題の理解を図る。		
授業到達目標	国際的な問題とそれに関連した事象についての現状と課題を説明できる。		
授業内容	(1) ガイダンス (2) 世界経済の動向と課題 3回目以降は以下のトピックを予定しているが, 受講者の人数によって, スケジュールは異なる。 (3) ~ (5) 国際貿易 (6) ~ (8) 為替レート (9) ~ (11) 国際投資 (12) ~ (14) 国際協調と地域統合 (15) まとめ		
キーワード	グローバル化, 貿易, 国際投資		
教科書・教材・参考書	教科書は使用しない。資料を配布する。		
成績評価の方法・基準等	①授業中の提出物, グループ学習の貢献度, プレゼンテーション (50%), ②期末試験 (50%) ただし, ①による評価が著しく低い場合には期末試験の受験資格を失う。		
受講要件（履修条件）			
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考（URL）			

備考（準備学習等）



Copyright (c) 2004-2009 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	木3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q6	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(途上国支援と国際保健)		
編集担当教員	松山 章子		
授業担当教員名(科目責任者)	松山 章子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松山 章子		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-33		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	akikommat@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	国際健康研究科（坂本キャンパス、原研二号館二階）		
担当教員TEL	095-819-7893		
担当教員オフィスアワー	随時（メールで事前に予約してください）		
授業のねらい	地球規模の課題、特に途上国の健康問題について、社会、経済、文化的背景を踏まえて現状を理解し、地球市民としてどのような貢献ができるか多角的視点から考えるための基礎知識を身につけることを目指します。グローバル社会の中における共生をテーマに、地球規模健康課題を解決するため、国連、政府開発援助組織、NGO、民間企業など多様な組織が取り組んでいますが、学生個人が現在そして将来、組織の一員として、あるいは一市民としてどのように協働していける可能性があるかを、主体的に考える機会を提供します。		
授業方法（学習指導法）	講義を中心としますが、基礎的知識の習得のプロセスで、自ら批判的目を養いつつ、現実的課題克服のための対策を立案する能力を涵養するため、グループでのディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション等を取り入れます。		
授業到達目標	国際社会における地球規模健康課題の現状を理解し、課題克服に貢献するためのプロジェクトの立案を経験する。		
授業内容	回	内容	
	1	国際開発とミレニアム開発目標：貧困とは何か？	
	2	生存のための人間開発：飢餓と栄養不良	
	3	生存のための人間開発：子供の健康	
	4	生存のための人間開発：女性の健康	
	5	生存のための人間開発：HIV/エイズ、結核、マラリア	
	6	生存のための人間開発：水と衛生	
	7	ディスカッションおよびグループワーク	
	8	成長と発達のための人間開発：教育	
	9	成長と発達のための人間開発：ジェンダー	

	10	国際開発のパートナー—援助機関（多国間機関、二国間機関、NGOなど）
	11	支援から協働へ：マイクロファイナンス
	12	支援から共同へ：企業の社会貢献と社会的責任
	13	ディスカッションおよびグループワーク
	14	グループ・ワーク発表①
	15	グループ・ワーク発表②
	16	まとめ：地球社会の一員としてなにができるか
キーワード	地球規模健康課題、国際保健、支援、援助、共生、協働	
教科書・教材・参考書	必要な資料を適宜配布	
成績評価の方法・基準等	グループ・ディスカッションにおける参加（貢献度）、最終発表（その纏めとしての）レポート	
受講要件（履修条件）	モジュール「グローバル社会へのパスポート」を選択した学生	
本科目の位置づけ	モジュール「グローバル社会へのパスポート」において、国際社会を理解するため、地球規模健康課題の現状の基礎知識を身につけ、その対策活動に関して主体的に考える力を涵養する。	
学習・教育目標	当該分野における基礎知識の習得とともに、知識を土台にして主体的に解決方法を考える能力を身につける	
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q7	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(社会科学からみた安全・安心)		
編集担当教員	宇都宮 譲		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 譲		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 譲		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-34		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yuzuru@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	経済学部東南アジア研究所209室		
担当教員TEL	内線384		
担当教員オフィスアワー	火曜日14時20分から15時まで		
授業のねらい	1.人類社会における経済活動を取り囲む、さまざまな危機や危険について、全体像を把握できる。 2.上記に関する、基本的な知識を獲得する。 3.上記について、見解を得て、かつ他人に明快に伝えることができる。		
授業方法（学習指導法）	*講義：各回に掲げる論題について、抗議する。 *グループ・プロジェクト・プレゼンテーション（GPP）：2名ないしは3名でつくるグループで、標記に関する論題について、指定時間内に発表してもらう。		
授業到達目標	社会および経済活動に対して影響を与える危機や危険について、 *相互にどう関連したたかなにもたらすか、知見を得る。 *構成する諸現象について、主要な概念、データ、および現象を知る。 *諸問題を解決する案について、考察する。 *主要な学説や考察が、正しいかどうか評価する。 *文書やスライドをつかって、危機や危険に関して参加者各位が有する見解を、伝えることができる。 *GPPを通じて、集団で何事か考える際に要求される基本的技術・技能に慣熟する。基本的技能を構成する要素については、別途資料を配布する		
	回	内容	
	1	はじめに：受講に関する条件を説明する。	
	2	倫理：過剰な消費、反社会的行為が人類社会にもたらす危機	
	3	人口：人口爆発や年齢階級別人口分布が歪むことがもたらす危機	
	4	自然環境：地震、洪水などが牙を向いたとき人類社会に発生する危機	

授業内容	5	安全保障：	
	6	GPP準備：発表にて用いるスライドとハンドアウトを点検、講評しながら発表にたえる品質をつくりこむ。	
	7	GPP発表（その1）：2、3名で編成するグループで、5分程度で与えられたテーマについて発表する。	
	8	8.GPP発表（その2）：第7回つづき。	
	9	9.企業活動（その1）：企業が市民社会を構成する一要素であることを忘れたときに発生する危機	
	10	企業活動（その2）：能力を欠く従業員が職場と企業、市民社会に対してもたらす危機	
	11	企業活動（その3）：従業員が有する多彩な資質を活用し得ない企業が社会にもたらす危機	
	12	GPP準備	
	13	GPP発表（その3）：2、4名程度で編成するグループで、10分程度で与えられたテーマについて発表する。	
	14	GPP発表（その4）：第13回つづき	
	15	おわりに	
	16		
	キーワード		
	教科書・教材・参考書	なし。教員が適宜作成・配布する。	
	成績評価の方法・基準等	参加（30%）：欠席・早退せずに出席すること、質問にこたえること、議論に参加することを意味する。 発表（70%）：Group Presentation Projectにおける発表に関する、内容とスタイルを指す。	
	受講要件（履修条件）	* 毎回必ず遅刻せずに出席すること。 * 自宅にインターネットに接続されたPCをもっていること。 * 簡単な（TOEIC500点程度）英語が理解できること	
本科目の位置づけ			
学習・教育目標			
備考（URL）			
備考（準備学習等）	インターネット上にアップロードされた映像資料を、参照する。たとえば、 http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-pacific-11649859 http://www.bbc.co.uk/news/world-asia-19462160 など。URLは、WebClass上にて適宜示す。		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	月4
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q8	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(人間と社会)		
編集担当教員	永田 聖二		
授業担当教員名(科目責任者)	永田 聖二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	永田 聖二		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-41		
対象学生（クラス等）	医歯工環		
担当教員Eメールアドレス	seiji@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部 本館6F 612号室		
担当教員TEL	819-2310		
担当教員オフィスアワー	月曜V限		
授業のねらい	古典派経済学からケインズ経済学まで、さまざまな経済学説の変遷をたどることによって、資本主義経済の機構を理論的に解明する。		
授業方法（学習指導法）			
授業到達目標	古典派経済学、マルクス経済学、近代経済学など、さまざまな経済学説の資本主義経済観を把握したうえで、資本主義経済の機構を理論的に説明できる。		
授業内容	回	内容	
	1	経済学の課題と対象	
	2	流通過程と重商主義思想1	
	3	流通過程と重商主義思想2	
	4	アダム・スミスと国富	
	5	アダム・スミスと生産過程	
	6	リカードウと労働価値説	
	7	リカードウと分配の経済学	
	8	リカードウと賃金論	
	9	リカードウと地代論	
	10	マルクスと価値形態論	
	11	レオンティエフと産業連関分析1	
	12	レオンティエフと産業連関分析2	
	13	スラッフアと価格方程式1	

	14	スラッフアと価格方程式2
	15	ケインズと有効需要の原理
	16	期末試験
キーワード	スミス、リカードウ、マルクス、スラッフア、ケインズ	
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等	期末試験100%	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ	社会科学	
学習・教育目標	資本主義経済機構の解明をつうじて社会科学的観点・考察法を身につける。	
備考（URL）		
備考（準備学習等）	ベクトルや行列など、線形代数の初歩的知識があれば、理解の助けになる。	



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	火3
開講期間			
必修選択	選択	単位数	2.0
時間割コード	201305660090Q9	科目番号	05660090
授業科目名	●経済と経営(社会制度と経済活動)		
編集担当教員	東條 正		
授業担当教員名(科目責任者)	東條 正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	東條 正		
科目分類	人文・社会科学科目		
対象年次	2年,3年,4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	H23年度以前入学者		
担当教員Eメールアドレス	tojo@nagasaki-uac.jp		
担当教員研究室	経済学部本館508研究室		
担当教員TEL	095-820-6341		
担当教員オフィスアワー	抗議後1時間		
授業のねらい	会社制度、金融制度 y、法制度の変遷を通じて現代経済の根幹を理解させる。		
授業方法（学習指導法）	パワーポイントを使って抗議を進め、毎抗議ごとに講義レポート（講義の概要と質問を記入）を提出させ、またアクティブ・ラーニング方式の質問を行い。さらに次の講義の冒頭に主要な質問事項に答える対話型の双方向講義形態を採用する。		
授業到達目標	現代経済・経営システムの根本概念を理解させる		
授業内容	回	内容	
	1	「会社」の原型の発生ー「会社」は、いつ、どこで、できたのか？ー	
	2	「会社」制度発生の背景-中世ヨーロッパの経済構造ー	
	3	「会社」制度の進展ー大航海時代の到来ー	
	4	「株式会社」の原型の発生ーオランダ東インド会社の設立ー	
	5	「株式会社」制度の発展ーイギリス経済の隆盛ー	
	6	「株式会社」制度の完成ーイギリス東インド会社の設立ー	
	7	「法の支配」と「会社制度」	
	8	「株式会社」制度の挫折ー世界初のバブルの発生ー	
	9	産業革命と「株式会社」制度の再生と財務会計の発生	
	10	米国における大量生産・大量消費体制の発生	
	11	経営組織と管理会計の発生	
	12	「市場システム」から巨大企業の独占へ	
	13	消費者保護のための独占禁止諸法の制定	

	14	世界大恐慌の発生
	15	第2次世界大戦後の金融体制
	16	リーマンショック後の国際金融制度の同様
キーワード		
教科書・教材・参考書		
成績評価の方法・基準等		
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水5														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20130566011003	科目番号	05660110														
授業科目名	●日本国憲法																
編集担当教員	植木 とみ子																
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子																
科目分類	自由選択科目、(教職免許科目他)、人文・社会科学科目																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目														
教室	[教養C棟]C-16																
対象学生（クラス等）	全学生																
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@fcv.ne.jp																
担当教員研究室	非常勤講師室																
担当教員TEL	092-521-6851																
担当教員オフィスアワー	上記または 090-4994-5830 にTELしてご相談下さい																
授業のねらい	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています																
授業方法（学習指導法）	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています																
授業到達目標	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は誦んじていただくことを期待します																
	<p>まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。</p> <p>日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とはなにか、憲法と他の法律との関係</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平和主義（憲法9条、沖縄）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係	2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）	3	平和主義（憲法9条、沖縄）	4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）	5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）	6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）
回	内容																
1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係																
2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）																
3	平和主義（憲法9条、沖縄）																
4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）																
5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）																
6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）																

授業内容	7	表現の自由（ポルノ・有害図書、報道の自由と限界、教科書検定）
	8	経済的自由（職業選択の自由と営業の規制、私有財産の保障とその制限）
	9	人身の自由（適正手続きとは、死刑制度について）
	10	社会権（生存権と生活保護、教育権は誰のもの、労働基本権）
	11	国務請求権と参政権 基本的人権の限界（公務員、外国人、私的関係）
	12	立法（国会の二院制は必要か、一票の重みの格差）
	13	行政（議員内閣制、行政の肥大化）
	14	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
	15	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	日本国憲法の条文を各自用意して下さい（103条しかありませんから、コピーしてもたいしたことはありません） 裁判例についてはこちらで用意します	
成績評価の方法・基準等	判例や条文に関する試験を実施します	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水6														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20130566011004	科目番号	05660110														
授業科目名	●日本国憲法																
編集担当教員	植木 とみ子																
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子																
科目分類	自由選択科目、(教職免許科目他)、人文・社会科学科目																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目														
教室	[教養C棟]C-16																
対象学生（クラス等）	全学生																
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@fcv.ne.jp																
担当教員研究室	非常勤講師室																
担当教員TEL	092-521-6851																
担当教員オフィスアワー	上記または 090-4994-5830 にTELしてご相談下さい																
授業のねらい	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています																
授業方法（学習指導法）	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています																
授業到達目標	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は誦んじていただくことを期待します																
	<p>まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。</p> <p>日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とはなにか、憲法と他の法律との関係</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平和主義（憲法9条、沖縄）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係	2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）	3	平和主義（憲法9条、沖縄）	4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）	5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）	6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）
回	内容																
1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係																
2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）																
3	平和主義（憲法9条、沖縄）																
4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）																
5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）																
6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）																

授業内容	7	表現の自由（ポルノ・有害図書、報道の自由と限界、教科書検定）
	8	経済的自由（職業選択の自由と営業の規制、私有財産の保障とその制限）
	9	人身の自由（適正手続きとは、死刑制度について）
	10	社会権（生存権と生活保護、教育権は誰のもの、労働基本権）
	11	国務請求権と参政権 基本的人権の限界（公務員、外国人、私的関係）
	12	立法（国会の二院制は必要か、一票の重みの格差）
	13	行政（議員内閣制、行政の肥大化）
	14	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
	15	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	日本国憲法の条文を各自用意して下さい（103条しかありませんから、コピーしてもたいしたことはありません） 裁判例についてはこちらで用意します	
成績評価の方法・基準等	判例や条文に関する試験を実施します	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		



タイトル「**2013年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 自由選択科目**」
 シラバスの詳細は以下となります。



学期	後期	曜日・校時	水6														
開講期間																	
必修選択	選択	単位数	2.0														
時間割コード	20130566011005	科目番号	05660110														
授業科目名	●日本国憲法																
編集担当教員	植木 とみ子																
授業担当教員名(科目責任者)	植木 とみ子																
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植木 とみ子																
科目分類	自由選択科目、人文・社会科学科目																
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目														
教室	[教養A棟]A-21																
対象学生（クラス等）	全学生																
担当教員Eメールアドレス	tuterrace@fcv.ne.jp																
担当教員研究室	非常勤講師室																
担当教員TEL	092-521-6851																
担当教員オフィスアワー	上記または 090-4994-5830 にTELしてご相談下さい																
授業のねらい	日本国憲法が、いかに日本国民にとって大切なものであるか、私たちの権利も義務も基本的にこの日本国憲法によって守られていること、そしてこの日本国憲法を守るのもまた私たち自身であることの自覚を持っていただくことを目的としています																
授業方法（学習指導法）	必要最小の限度で講義形式で憲法の概要を説明しますが、基本的には実際に争われた裁判の事例を検討することにより、憲法がいかに市民生活に身近でたいせつなものであるかを、実感していただけるような授業を展開したいと考えています。そのため授業の3回目あたりから、裁判形式でみなさんの積極的なディベートを期待しています																
授業到達目標	日本国を支える一員として、日本国憲法の全体を理解し、大切な条文は誦んじていただくことを期待します																
	<p>まず、日本国憲法の重要性について、つぎに日本国憲法の基本的理念である国民主権と平和主義について、講義します。基本的人権については、包括的基本権と法の下での平等、さらに各種の自由権や社会権について、できるだけ身近な判例を数多く取り上げ、検討して参ります。統治機構については、その仕組みを理解し、健全な批判精神をもっていただくために、日々の社会事象を取り上げたいと考えています。</p> <p>日本国憲法は、関係する条文を毎回確認していきますので、どのような形でも結構ですから、必ず入手して下さい</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>法とはなにか、憲法と他の法律との関係</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>平和主義（憲法9条、沖縄）</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係	2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）	3	平和主義（憲法9条、沖縄）	4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）	5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）	6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）
回	内容																
1	法とはなにか、憲法と他の法律との関係																
2	国民主権（大日本帝国憲法と日本国憲法）																
3	平和主義（憲法9条、沖縄）																
4	幸福追求権（プライバシーの権利、自己決定権）																
5	法の下での平等（男女は平等か、尊属殺について）																
6	内心の自由（信教の自由、政教分離、学問の自由と大学の自治）																

授業内容	7	表現の自由（ポルノ・有害図書、報道の自由と限界、教科書検定）
	8	経済的自由（職業選択の自由と営業の規制、私有財産の保障とその制限）
	9	人身の自由（適正手続きとは、死刑制度について）
	10	社会権（生存権と生活保護、教育権は誰のもの、労働基本権）
	11	国務請求権と参政権 基本的人権の限界（公務員、外国人、私的関係）
	12	立法（国会の二院制は必要か、一票の重みの格差）
	13	行政（議員内閣制、行政の肥大化）
	14	司法（裁判所の組織、裁判員制度）
	15	地方自治（地方自治の実態、これからの地方自治のあり方） 憲法の保障（憲法改正に関する諸問題）
	16	定期試験
キーワード		
教科書・教材・参考書	日本国憲法の条文を各自用意して下さい（103条しかありませんから、コピーしてもたいしたことはありません） 裁判例についてはこちらで用意します	
成績評価の方法・基準等	判例や条文に関する試験を実施します	
受講要件（履修条件）		
本科目の位置づけ		
学習・教育目標		
備考（URL）		
備考（準備学習等）		

